

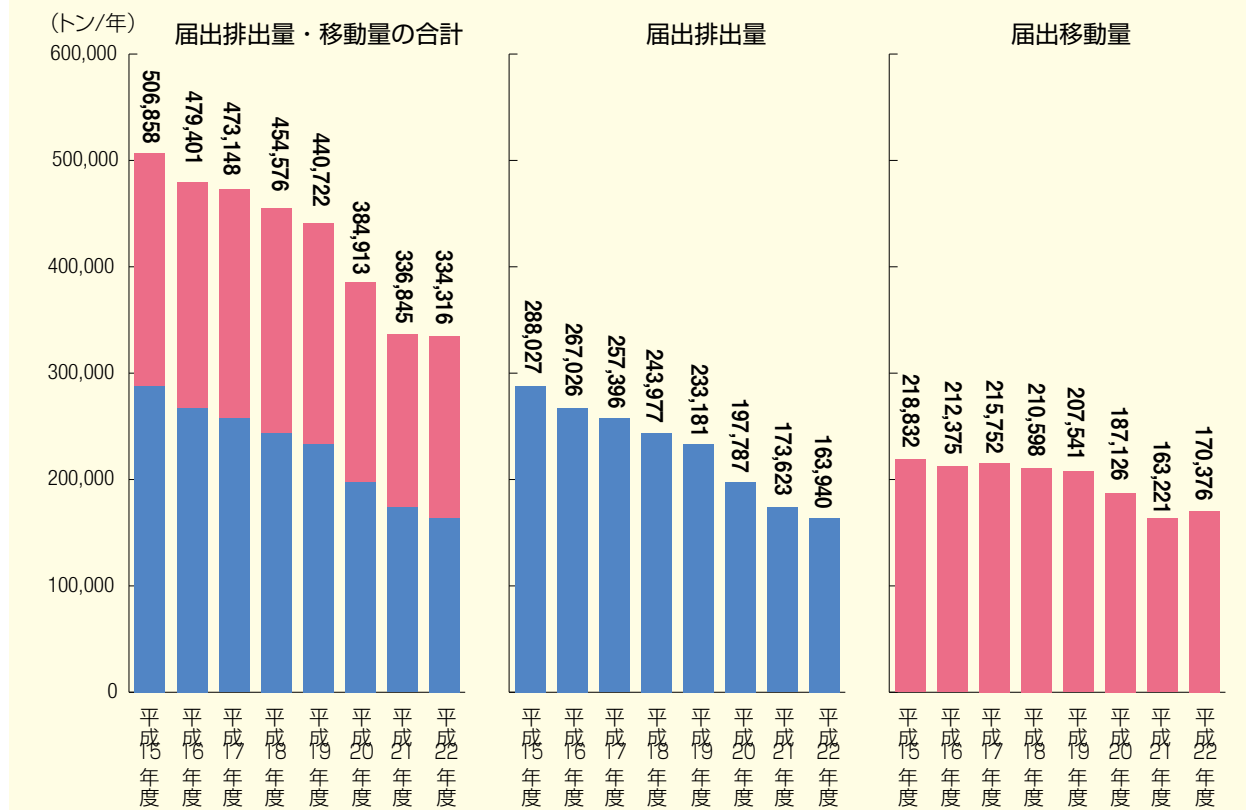
## [ 集計・加工例 ]

継続物質に注目して平成15～22年度の届出排出量と届出移動量を棒グラフで示してみました。内訳は、表に示しています。

使用データ

届出

## ● 継続物質の平成15～22年度までの届出排出量・移動量



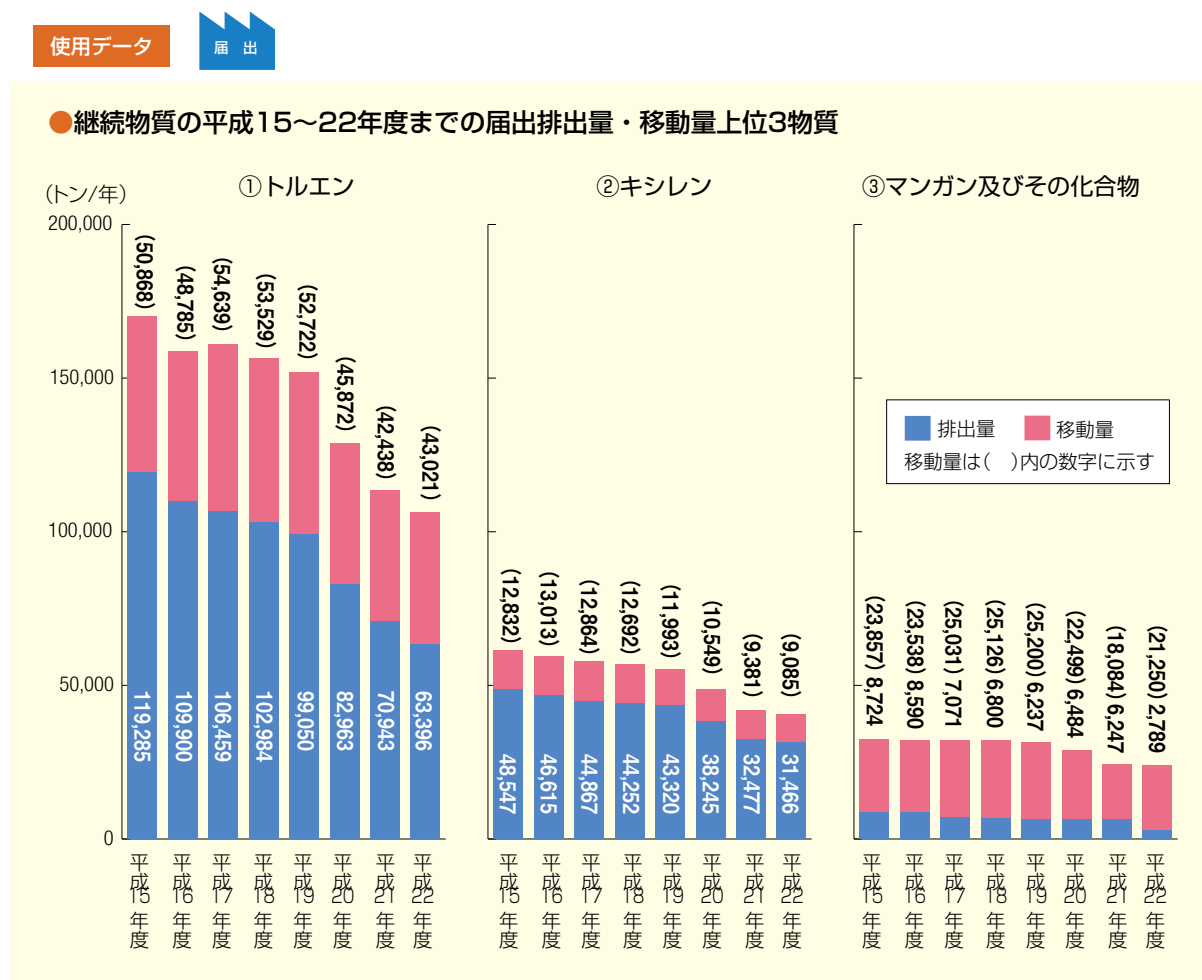
平成22年度に事業者から届出のあった届出排出量・移動量の総計は、約38万1千トンでした。うち、継続物質の届出排出量・移動量の総計は約33万4千トンで、前年度より減少しています。

特徴的な傾向を見てみると、平成22年度に事業者から届出のあった継続物質の届出排出量のうち、特に大気への排出量は、平成15年度と比較して約41%減少しています。その理由の一つとして、PRTR制度により事業者、市民、行政の協力のもと、自主的な取組が行われたことが考えられます。

このように、PRTR制度は、化学物質による環境リスクを削減することに効果を上げていることが分かります。

[ 集計・加工例 ]

継続物質の中で、平成22年度の届出排出量と届出移動量を足した合計が多かった上位3物質を過去7年分のデータとあわせて棒グラフで示してみました。



届出排出量・移動量の総量は、減少傾向にあります。上位3物質の構成と順位は、平成21年度と同じです。排出量が多かったトルエンやキシレンは、製造業全般で主に油性塗料や接着剤などの溶剤として使われています。これらの2物質は、揮発性が高い液体という点が共通しています。マンガン及びその化合物は、主に鉄鋼業や非鉄金属製造業、化学工業などから排出されており、そのほとんどが廃棄物として事業所から移動されたり、埋立処分されたりしています。

③ 大気・水・土壌に多く排出されている物質

[ データの項目 ]

継続物質について、平成15～22年度の排出先別（大気、公共用水域、事業所敷地内の土壌、事業所敷地内の埋立処分）の届出排出量を見てください。

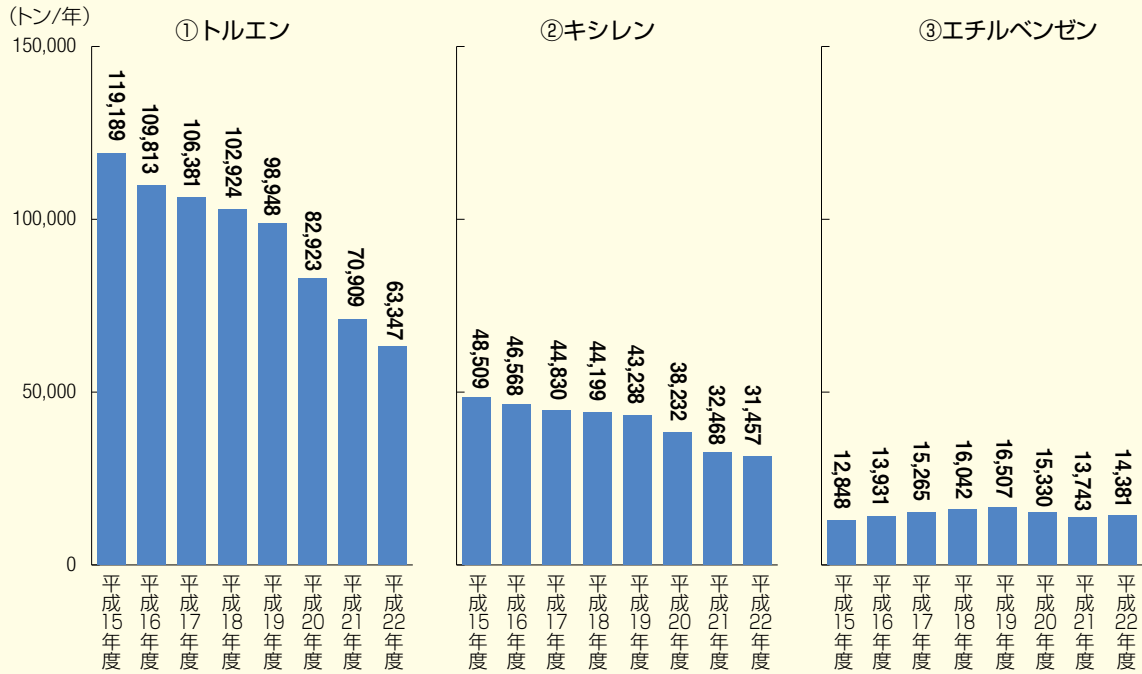
[ 集計・加工例 ]

平成22年度の排出先別に排出量の多い上位3物質を過去7年分のデータとあわせて棒グラフで示してみます。なお、グラフ毎に縦軸の単位が異なることに留意しましょう。

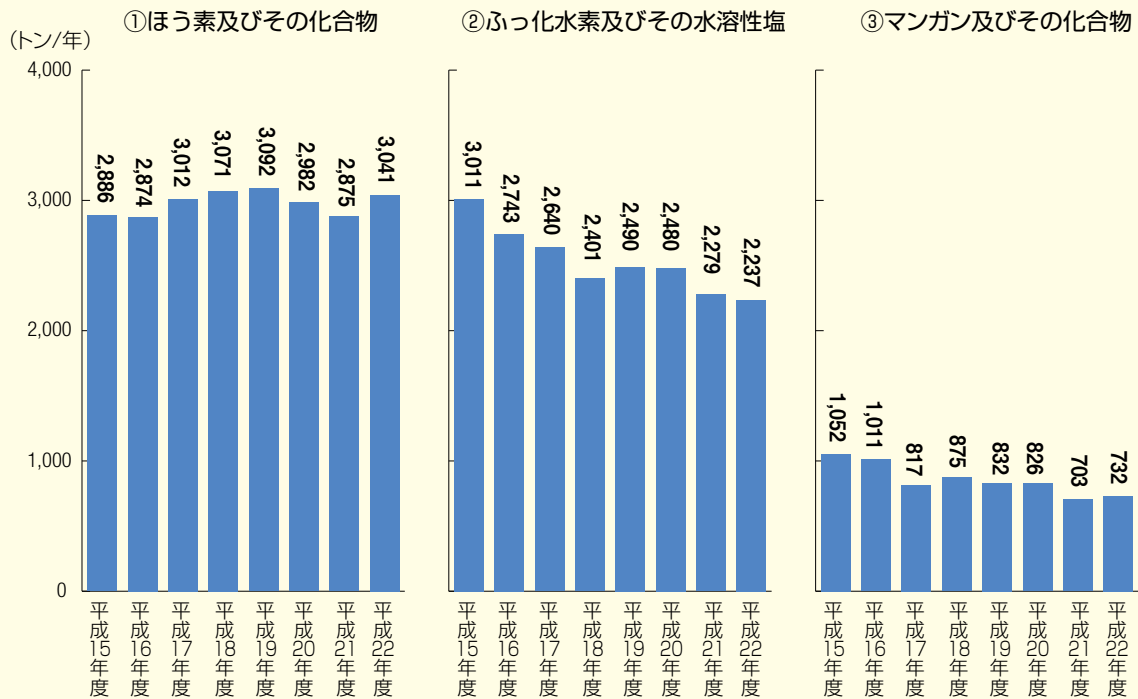
使用データ

届出

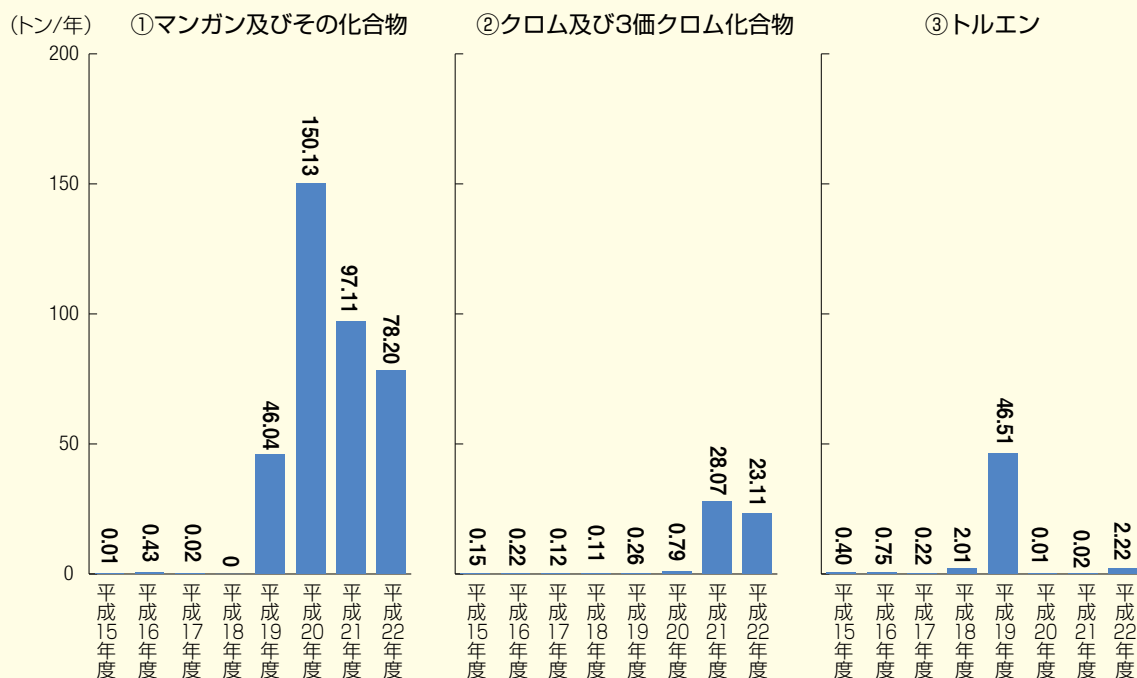
●継続物質の大气への届出排出量上位3物質



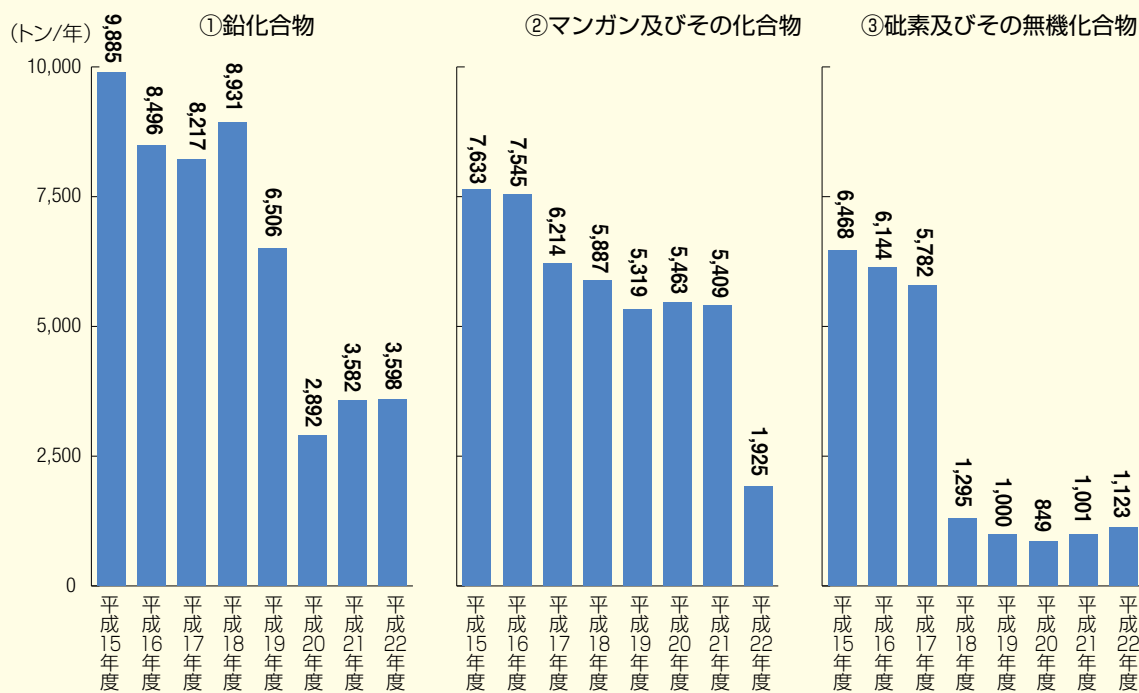
●継続物質の公共用水域への届出排出量上位3物質



● 継続物質の事業所内の土壌への届出排出量上位3物質



● 継続物質の事業所内の埋立処分の届出排出量上位3物質



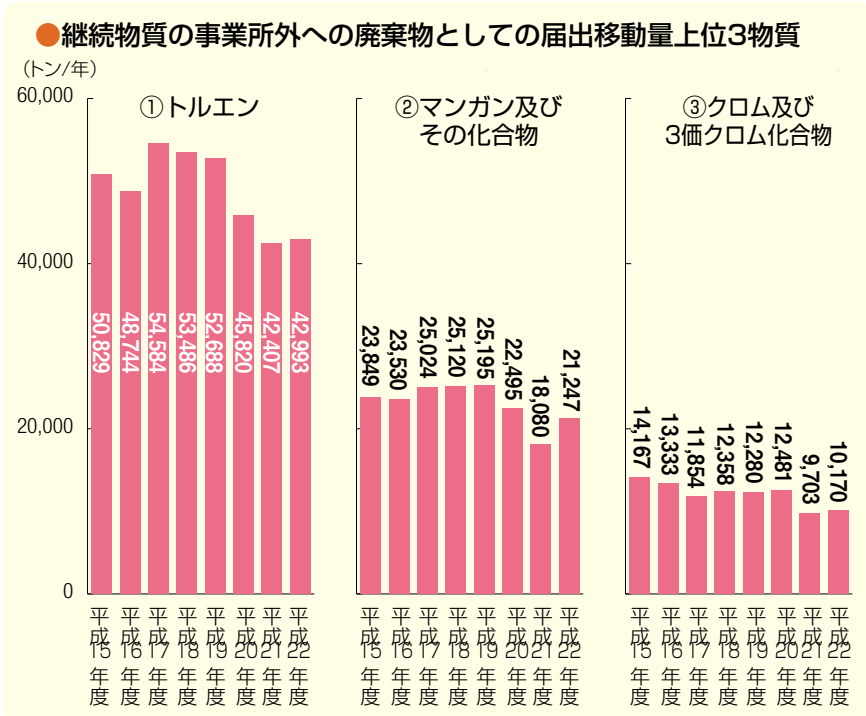
#### ④ 移動量

##### [ データの項目 ]

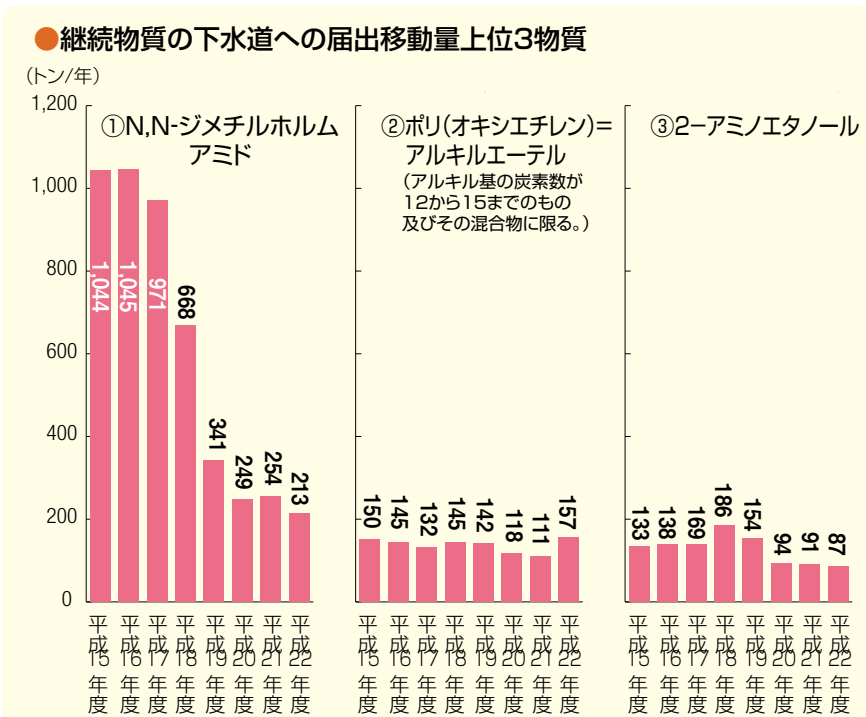
平成15～22年度の廃棄物に含まれて移動される物質と下水道へ移動される物質にはどのようなものがあるのか見てみましょう。

##### [ 集計・加工例 ]

継続物質について、平成22年度の廃棄物としての移動量と下水道への移動量のそれぞれ上位3物質を過去7年分のデータとあわせて棒グラフで示してみました。なお、グラフ毎に横軸の単位が異なることに留意しましょう。



廃棄物としての届出移動量上位3物質の構成は、平成21年度と同じです。2番目に多いマンガンは、合金の原料や鉄鋼製品を製造するときの添加剤などとして使用されています。また、マンガンの化合物としては、乾電池や酸化剤に使われる二酸化マンガンを飲料水の処理などに使われる過マンガン酸カリウムなどがあります。3番目のクロム及び3価クロム化合物は、合金の成分として特殊鋼や非鉄金属などに使用されています。

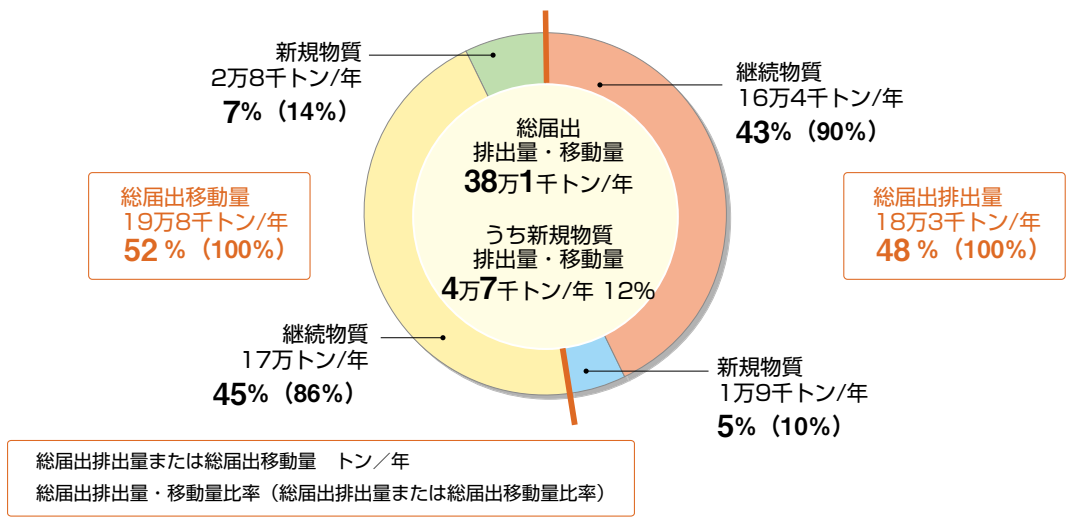


下水道への届出移動量上位3物質のうち、排出量が最も多いN,N-ジメチルホルムアミドは、合成繊維や合成皮革、医薬品、農薬、特殊インキなどを作るときに溶剤として使用されています。また、2番目に多いポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)は、界面活性剤として使用されています。

### 新規物質の届出排出量・移動量の集計結果

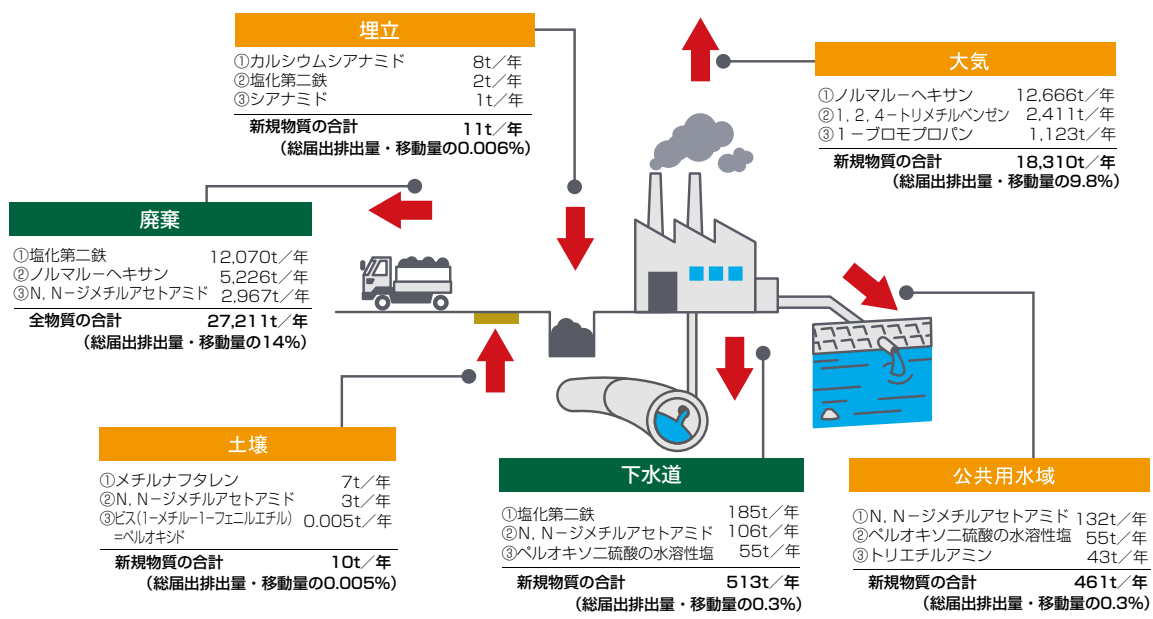
新規物質186物質のうち届出があった170物質に係る集計結果を示します。  
 全国の事業者から届出のあった新規物質の総排出量・移動量は4万7千トン（総排出量・移動量比率12%）で、その内訳は総排出量1万9千トン（同5%）、総移動量2万8千トン（同7%）でした。

#### ●新規物質の総届出排出量・移動量の構成



#### ●新規物質の種類と排出量・移動量

（事業所からの届出分のみ）



## 4 ホームページ上でPRTRデータを見る

環境省のホームページからPRTRデータやその集計結果を入手することができます。

### 環境省「PRTR集計・公表システム」

環境省のPRTR集計・公表システムでは、集計結果の閲覧や検索、集計データのファイルをダウンロードすることができます。この「PRTR集計・公表システム (PRTRインフォメーション広場内)」を利用するには、2通りの方法があります。

#### [1] 検索エンジン (Yahoo!, Googleなど) から検索する

検索欄に「PRTR」と入力し、検索結果一覧の中から

**PRTRインフォメーション広場>集計結果・データ** をクリックしてください。

PRTRインフォメーション広場トップページ

HP [http://www.env.go.jp/chemi/prtr/risk\\_0.html](http://www.env.go.jp/chemi/prtr/risk_0.html)



集計結果・データを見る

HP <http://www.env.go.jp/chemi/prtr/result/index.html>



#### [2] 環境省のホームページから探す

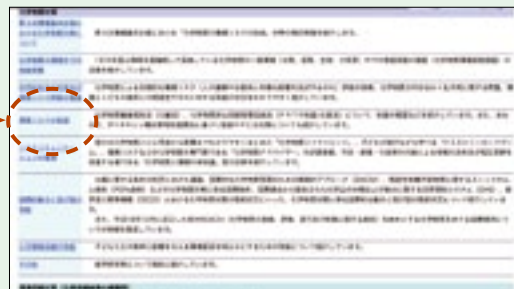
環境省のトップページから次に示す手順に沿って進んでください。

HP <http://www.env.go.jp/>

1 「保健・化学物質対策」の「化学物質 (PRTR等)」をクリックします。



2 「化学物質対策」の中の「環境リスクの低減」をクリックします。



3 「PRTR:化管法ホームページ(PRTRインフォメーション広場)」の「集計結果・データを見る」をクリックします。



4 「集計結果・データを見る」のページが表示されます。「グラフでデータを見る」をクリックします。



「グラフでデータを見る」のページが表示されます。ここで「集計・公表システム」を利用できます。



HP <http://www2.env.go.jp/chemi/prtr/prtrinfo/index.html>



では、関心のある物質や業種について、都道府県比較のグラフ・地図を見てみましょう。

**1** 目次画面

「全体像」「環境への排出」「下水や廃棄物としての移動」「届出外推計結果」から、見たいグラフを選びます。  
ここでは例として、「環境への排出」を選択します。



**2** 「主な図表」の画面になります。

「↑」や「🔄」等のアイコンをクリックすると、さまざまなグラフが表示されます。



(出力例)  
排出量上位 10 物質とその排出量






3 「集計表から調べる」をクリックすると、法令に基づいた集計表からデータを検索することができます。



4 1. 排出年度  
2. 業種  
3. 化学物質  
について、それぞれ希望するものが選べます。



5 最後に、  
●大気への排出量  
●公共用水域への排出量  
●土壌への排出量  
●当該事業所敷地内での埋立  
●排出量合計  
の5項目から見たい項目を選択し、   をクリックしましょう。

以下のように、さまざまなグラフや地図を表示させることができます。



グラフでは、排出量の大きさが実数で示されているため、排出量の大小関係がわかります。



都道府県地図では、排出量の大きさが色でランクわけされているため、自分の住む都道府県が全国でどの位の位置にあるのがわかります。

年度比較表では、排出量の増減がわかります。

## 環境省「PRTRデータ地図上表示システム」

「PRTRデータ地図上表示システム」で個別事業所を地図から探したり、個別事業所のデータをグラフや図で見たりできるようになりました。

この「PRTRデータ地図上表示システム」を利用するには

**PRTRインフォメーション広場>個別事業所のデータ** をクリックして次に示す手順で進んでください。

**HP** <http://www2.env.go.jp/chemi/prtr/prtrmap/>

### 1 目次画面

「地域から選ぶ」「事業所を検索する」から、検索したい方法を選びます。  
 「地域から選ぶ」を選択した場合を、2-1～2-4に示します。  
 「事業所を検索する」を選択した場合を、3-1～3-2に示します。



### 2-1 1の画面で「地域から選ぶ」

を選択すると、検索条件と日本地図が表示されます。

- 1.化学物質
- 2.排出年度
- 3.地方
- 4.都道府県
- 5.市区町村
- 6.郵便番号

について、それぞれ希望するものを選び、「検索」をクリックします。

また、地図上で県名をクリックして選ぶこともできます。

ここでは例として、東京都を選択して検索します。



**2-2** 「県ごとの地図画面」になります。  
地図上で見たい事業所の●をクリックすると、地図が拡大されます。もう1度●をクリックすると、その事業所の排出先別の排出量・移動量を示す図が表示されます(5の画面)。



**2-3** 2-2の地図を拡大・縮小して、見たい事業所を探ることができます。



**2-4** 地図の周囲にある▲をクリックすると、地図を移動させて見たい事業所を探ることができます。



**3-1** 1の画面で「事業所を検索する」を選択すると、検索条件が表示されます。

- 1. 排出年度      2. 都道府県
- 3. 市区町村    4. 郵便番号
- 5. 事業所名    6. 物質
- 7. 排出・移動先 8. 排出条件
- 9. 業種

について、それぞれ希望するものを選び、「検索」をクリックします。



**3-2** 「事業所名」「所在地」「業種」「全排出量・移動量」の一覧が表示されます。

見たい事業所の「所在地」を選択すると事業所周辺の地図が表示されます(4の画面)。「事業所名」をクリックすると、その事業所の排出先別の排出・移動量を示す図が表示されます(5の画面)。



**4** 事業所周辺の地図です。事業所の●をクリックすると、排出先別に排出・移動量を示す図が表示されます。



5 「絵で排出・移動量」の画面です。  
最後に、

- グラフで排出・移動量
- 事業所情報
- 詳細排出・移動量
- 表で経年変化
- グラフで経年変化

の5項目から見たい項目をクリックしましょう。



以下のように、さまざまなグラフや表を表示させることができます。



「グラフで排出・移動量」では、物質別・排出先別に、排出・移動量の大小関係がわかります。

「事業所情報」では、事業者名、事業所名、事業所の所在地や従業員数など、事業所に関連する情報がわかります。

「詳細排出・移動量」では、物質別・排出先別に、排出・移動量を数値でみることができます。

「表で経年変化」では、物質別・排出先別に、排出・移動量の平成13年度からの経年変化がわかります。



「グラフで経年変化」では、物質別に、排出・移動量の平成13年度からの経年変化がわかります。

## 5 個別事業所のPRTRデータを手にする

化学物質の環境中への排出状況に関する理解をより深めるため、個別事業所のPRTRデータを環境省のホームページ上で容易に入手することができます。

また、これまでのように所定の手続きを経て、当該データについて国へ開示請求を行うことも可能です（56ページをご参照ください。）。

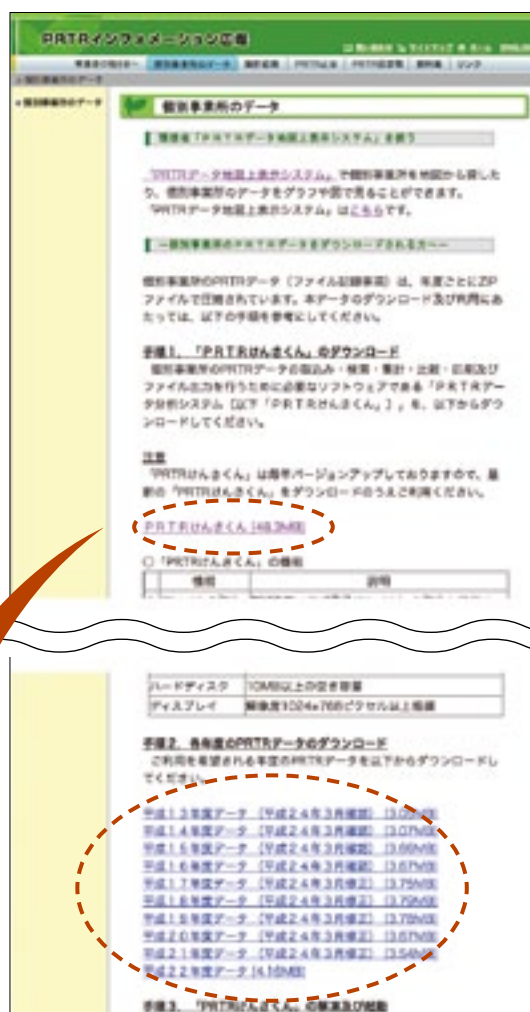
### (1) 個別事業所のデータと「PRTRけんさくくん」の利用について

個別事業所のPRTRデータは、環境省のホームページ上にある「PRTRインフォメーション広場>個別事業所のデータ」よりダウンロードできます。

**HP** <http://www.env.go.jp/chemi/prtr/kaiji/index.html>

ここで得られるデータは、年度ごとに「本紙ファイル（本紙.txt）」「別紙ファイル（別紙.txt）」「他業種ファイル（他業種.txt）」の3種類に分かれています。データを利用する際はこれらのファイルを1つに統合する作業が必要ですが、ソフトウェア「PRTRけんさくくん」を利用するとこの作業を行なうことができ、PRTRデータの再集計や分析が容易にできます。

「PRTRけんさくくん」は、個別事業所のPRTRデータと同じ画面上から入手できます。



**PRTR  
けんさくくんの  
機能**

機能	説明
1. ファイルの取込み	PRTR データ（電子ファイル）を取込む機能
2. データの検索・抽出	データ一覧画面に表示されるデータについて検索・抽出する機能
3. データの集計	データを全国・都道府県・市区町村毎に集計し、一覧表示またはグラフ表示する機能
4. データの比較	違う年度のデータを比較する機能
5. データの印刷	データを印刷する機能
6. ファイルの出力	取込んだファイルをデータベースソフトや表計算ソフトで扱いやすいファイルに変換して出力する機能

## 個別の事業所からの化学物質の排出・移動量について 「PRTRけんさくくん」で調べてみよう

PRTRけんさくくんを使うと、例えば自分が住んでいる地域の事業所ごとのPRTRデータを簡単に調べることができます。

### 『PRTRけんさくくんの使い方』ガイド

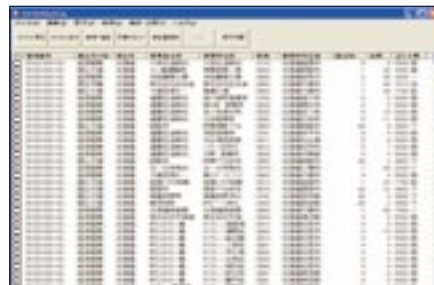
「PRTRけんさくくん」と「PRTRデータ」をダウンロードし、「PRTRけんさくくん」を使えるような状態にしてください。  
(詳細な方法については、<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/kaiji/index.html>を参照してください。)

- 1 ダウンロード後、prtrdas.exeをダブルクリックして「PRTRけんさくくん」を立ち上げます（prtrdas.exe [PRTRけんさくくん] は、「PRTR kensakun」→「PRTRデータ分析システム」→「PRTRDAS」→「PRTR Data Analyze System」の中にあります。）。
- 2 ホームページよりダウンロードしておいた調べたい年度の「PRTRデータ」を、以下の手順で「PRTRけんさくくん」に取り込みます。  
「ファイル取込」→「ファイルの取込み」画面－「参照」→「ファイルを開く」画面－調べたい年度の「本紙.txt」「別紙.txt」「他業種.txt」の3つのファイルを同時に選択→「開く」→「取込み開始」→「ファイルの取込み処理を実行中」が表示され、「PRTRけんさくくん」にPRTRデータが取り込まれます。

### 自分が住んでいる市区町村における個別事業所のPRTRデータ

- 1 「PRTRけんさくくん」のメイン画面 → 2 「検索・抽出」 →
- 3 文字列・数値で検索－事業所所在地 → 4 「リストから入力」 →
- 5 都道府県を選択 → 6 市区町村を選択 → 7 「OK」 → 8 「新規検索」
- 9 調べたい市区町村の個別事業所データが表示されます。

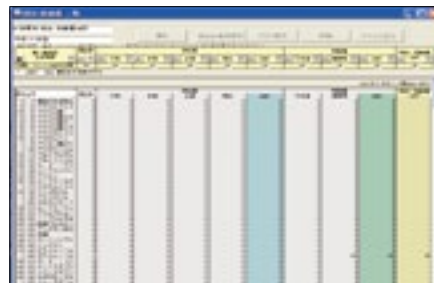
※ツールバーの「表示」から「物質ごと一覧」を選択すると、個別事業所の物質ごとの排出量・移動量を表示することができます。



### さらに調べてみましょう

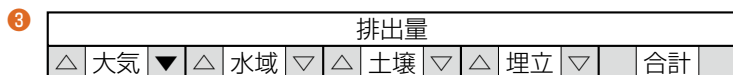
### 自分が住んでいる市区町村における化学物質別の排出・移動量

- 1 「PRTRけんさくくん」のメイン画面 → 2 「排出量集計」 →
- 3 集計する範囲－◎市区町村別に集計にチェック → 4 「選択」 →
- 5 都道府県を選択 → 6 市区町村を選択 → 7 「OK」 → 8 集計する項目－◎第一種指定化学物質にチェック → 9 「選択」 → 10 「全てチェック」 →
- 11 「OK」 → 12 「集計開始」 → 13 自分が住んでいる市区町村における化学物質の排出・移動量の一覧が表示されます。

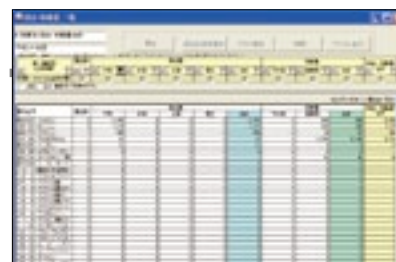


### 「排出・移動量の順番を並べ替える場合

- 1 排出・移動量一覧の表示画面 → 2 大気への排出量大きい順に並べる



→ クリックすると、▽が黒く(▼)なり、排出量が降順になります。



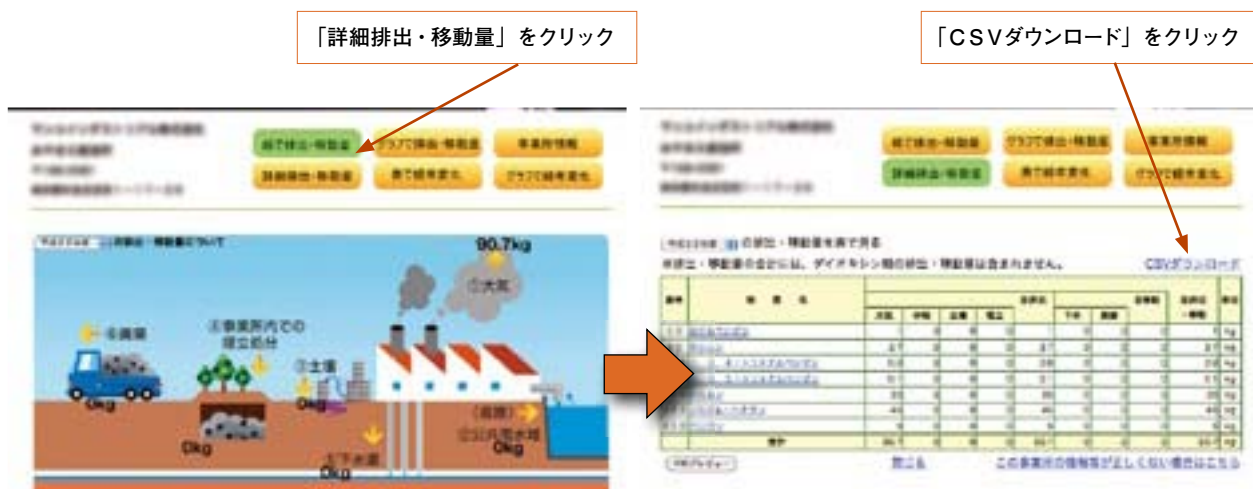


## (2) 環境省「PRTRデータ地図上表示システム」の利用について

環境省「PRTRデータ地図上表示システム」で個別事業所のPRTRデータやその経年変化を見ることができます。

また、それらのデータを**CSV方式**<sup>※9</sup>のファイルでダウンロードできます。

「PRTRデータ地図上表示システム」の機能や利用方法は50～53ページをご覧ください。



## (3) 開示請求

### 1) 開示されるデータ

事業者から届けられた個別事業所ごとの情報は、開示請求をすることによっても、個人情報等を除く次の情報を入手することができます。

- ① 事業者、事業所に関する情報（名称、所在地等）
- ② 事業所における第一種指定化学物質の排出量・移動量に関する情報
  - 第一種指定化学物質の名称
  - 大気への排出量、公共用水域への排出量、事業所における土壌への排出量、事業所における埋立処分量及び排出先の名称
  - 下水道への移動量
  - 事業所外への移動量

開示されるデータは、電子媒体（光ディスク（CD-R）又はフレキシブルディスク（FD））による交付、用紙による交付のうち、いずれかの方法を選択することができます。

電子媒体により交付される事業所データの電子ファイルは、CSV方式<sup>※9</sup>で提供され、データベースソフトや表計算ソフトの多くで読み書きができ、開示請求者が独自に表を作成したり、集計・分析等を行うことが可能です。

また、電子ファイルにはPRTRデータ分析システム「PRTRけんさくん」が納められており、集計・分析等が簡単に行えます。「PRTRけんさくん」の利用については、54ページをご参照ください。

国による集計結果の公表日以降であれば、誰でも個別の事業所が届け出た排出量等のデータについて、国に対して開示請求をすることができます。請求先は、環境省、経済産業省及び事業者の営業活動を管轄する省庁です。

※9 CSV方式とは、項目の間をカンマで区切ったテキスト形式のファイルのことです。

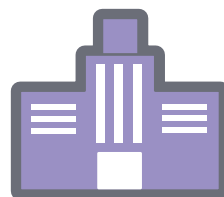
## 2) 開示請求の窓口

環境省及び経済産業省の窓口では、全国すべての事業者からの届出について開示請求を受け付けるほか、開示にあたっての事前照会（開示を希望する事業所等を特定するための事前の手続き）や開示手続全般の問い合わせにも対応しています。

それ以外の事業所管省庁（財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、防衛省）では、その省庁が所管している事業者からの届出分について、開示請求を受け付けています。

各省庁に設置されているPRTR開示窓口は、以下のとおりです。

省庁名	問い合わせ部署	住所／電話／E-mail	対象となる業種
財務省	理財局総務課たばこ塩事業室	〒100-8940 東京都千代田区霞が関3-1-1 電話:03-3581-4111(内線2259) FAX:03-5251-2239	たばこ塩製造業など
文部科学省	研究開発局環境エネルギー課	〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 電話:03-5253-4111(内線4535) FAX:03-6734-4162	高等教育機関など
厚生労働省	医薬食品局審査管理課 化学物質安全対策室	〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 電話:03-5253-1111(内線2426) FAX:03-3593-8913	医薬品製造業など
農林水産省	消費・安全局農産安全管理課 農薬対策室	〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(内線4500) FAX:03-3501-3774	農薬製造業など
経済産業省	製造産業局化学物質管理課 化学物質リスク評価室	〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1 電話:03-3501-1511(内線3691~3695) FAX:03-3580-6347	全業種
国土交通省	総合政策局環境政策課	〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3 電話:03-5253-8111(内線24335) FAX:03-5253-1550	下水道、自動車 整備業など
環境省	環境保健部環境安全課	〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 電話:03-3581-3351(内線6358) FAX:03-3580-3596 Eメール:ehs@env.go.jp	全業種
防衛省	大臣官房文書課環境対策室	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1 電話:03-3268-3111(内線20902) FAX:03-5229-2134	駐屯地など



### 3) 請求の方法

開示請求には、開示請求者の氏名及び住所、開示請求しようとする事業所の名称及び所在地、その他の開示を希望する事業所を特定できる事項が必要です。

また、特定の事業所に限定せず、ある年度に届出のあったすべての事業所のデータを請求することもできます。その場合は、必要な事項を「ファイル記録事項開示請求書」（99ページ参照）

<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/kaiji/kaiji2.html>に記入し、

① 開示窓口へ直接提出する、② 郵送により提出する、③ インターネットを利用し提出するという、3つの方法のうちいずれかを選択します。

提出方法(国民)	開示方法(環境省)
①開示窓口へ直接提出する	CD-R等の開示媒体をお渡しします。
②郵送により提出する	CD-R等の開示媒体を郵送しますので、切手を貼付した返信用封筒(A4以下でCD-RやFDが入る大きさのもの)が必要となります。切手代は、CD-R1枚の場合、140円(定形外封筒)です。
③インターネットを利用し提出する (環境省ホームページの「各種の窓口・案内」 (電子申請・届出窓口)から行う。)	

### 4) 開示請求の手数料

開示請求には、所定の手数料が必要です。手数料は、開示を受ける媒体及びデータの量(容量)によって決まります。手数料は、開示請求書に収入印紙を貼付して納付します。なお、インターネットにより開示請求する場合には、電子納付します。

内 容	開示媒体	数料算出方法
事業所を 検索して開示	用紙(A4)	紙1枚につき20円
	フレキシブルディスク(FD)	FD1枚につき80円+0.5MB(メガバイト)までごとに260円
	光ディスク(CD-R)	CD-R1枚につき200円+0.5MBまでごとに260円
年度の全データ を開示	光ディスク(CD-R)	CD-R1枚につき200円+200MBまでごとに900円

平成22年度の全国・全事業所のデータのみを1枚のCD-Rに収録したものは「1,100円」、過年度修正版と平成22年度の各々の全国・全事業所のデータを併せて1枚のCD-Rに収録したものは「2,000円」となります。

開示請求に関する詳しい情報は、環境省のホームページ「PRTRインフォメーション広場」の「開示を請求される方へ」をご参照ください。

**HP** <http://www.env.go.jp/chemi/prtr/kaiji/kaiji2.html>

# IV

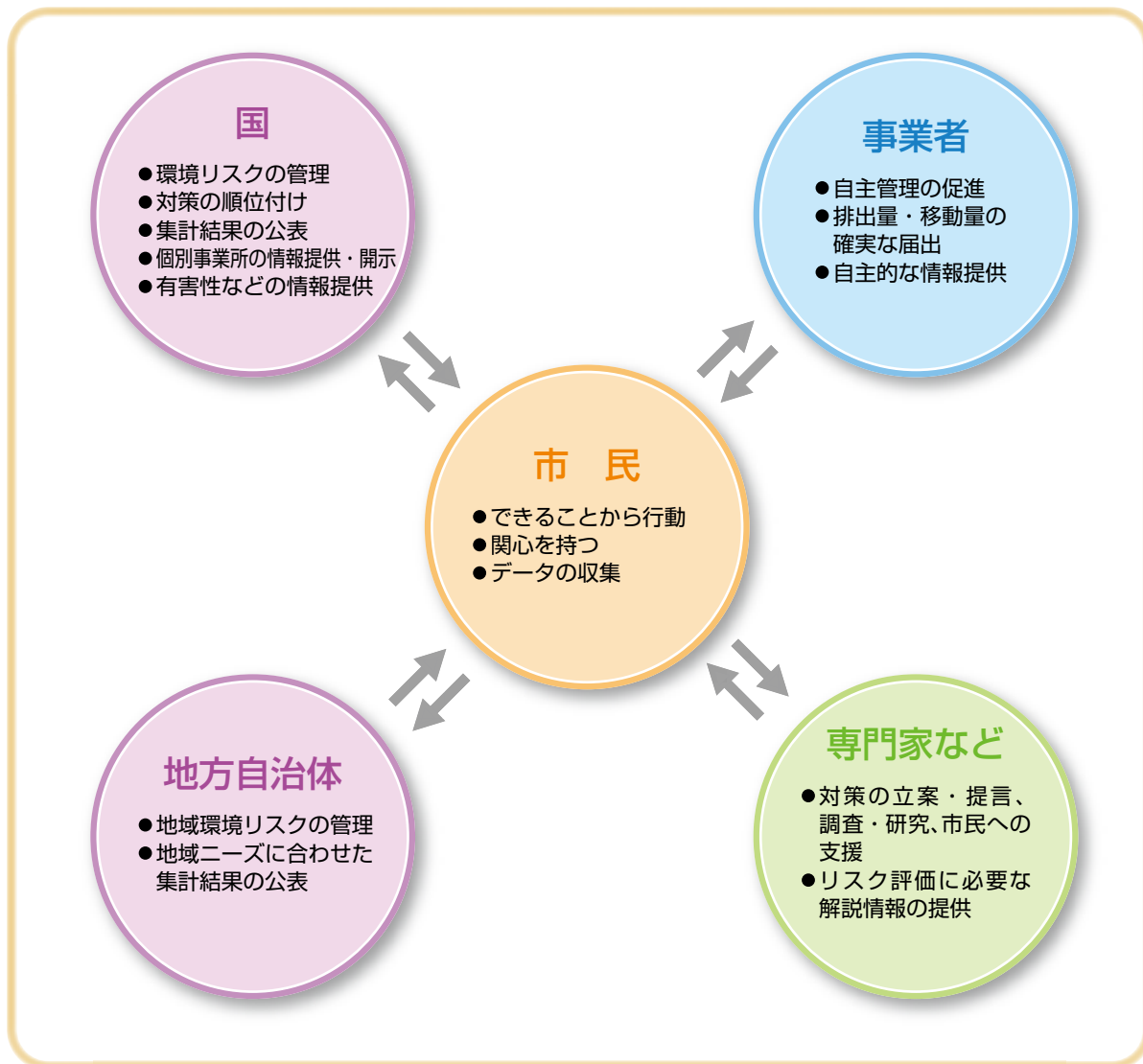
## 化学物質による 環境リスク低減のために

1	市民・事業者・行政のそれぞれの役割	62
2	リスクコミュニケーション	63
	(1) リスクコミュニケーションとは	63
	(2) 近隣の工場とリスクコミュニケーションしたいときは	64
	コラム1： リスクコミュニケーションを支援するしくみ 「化学物質に関する冊子」	65
	コラム2： リスクコミュニケーションを支援するしくみ 「化学物質アドバイザー」	66
	コラム3： リスクコミュニケーションを支援するしくみ 「GHS」	67
3	PRTRデータの活用例	68
	(1) NGO・NPOの取組	68
	(2) 地方自治体の取組	69
	(3) 企業の取組	71

# 1 市民・事業者・行政のそれぞれの役割

PRTR 制度は、個々の物質を規制するのではなく、化学物質の排出に関する情報を公表することにより、地域全体で化学物質による環境リスクを減らしていくことを目指した仕組みです。この制度では、国や地方自治体などの行政と事業者、そして市民や専門家などが、それぞれの役割を果たしていかなければ、公表された情報は活かされません。PRTR 制度におけるそれぞれの役割を下図に示します。

## ●PRTR制度におけるそれぞれの役割



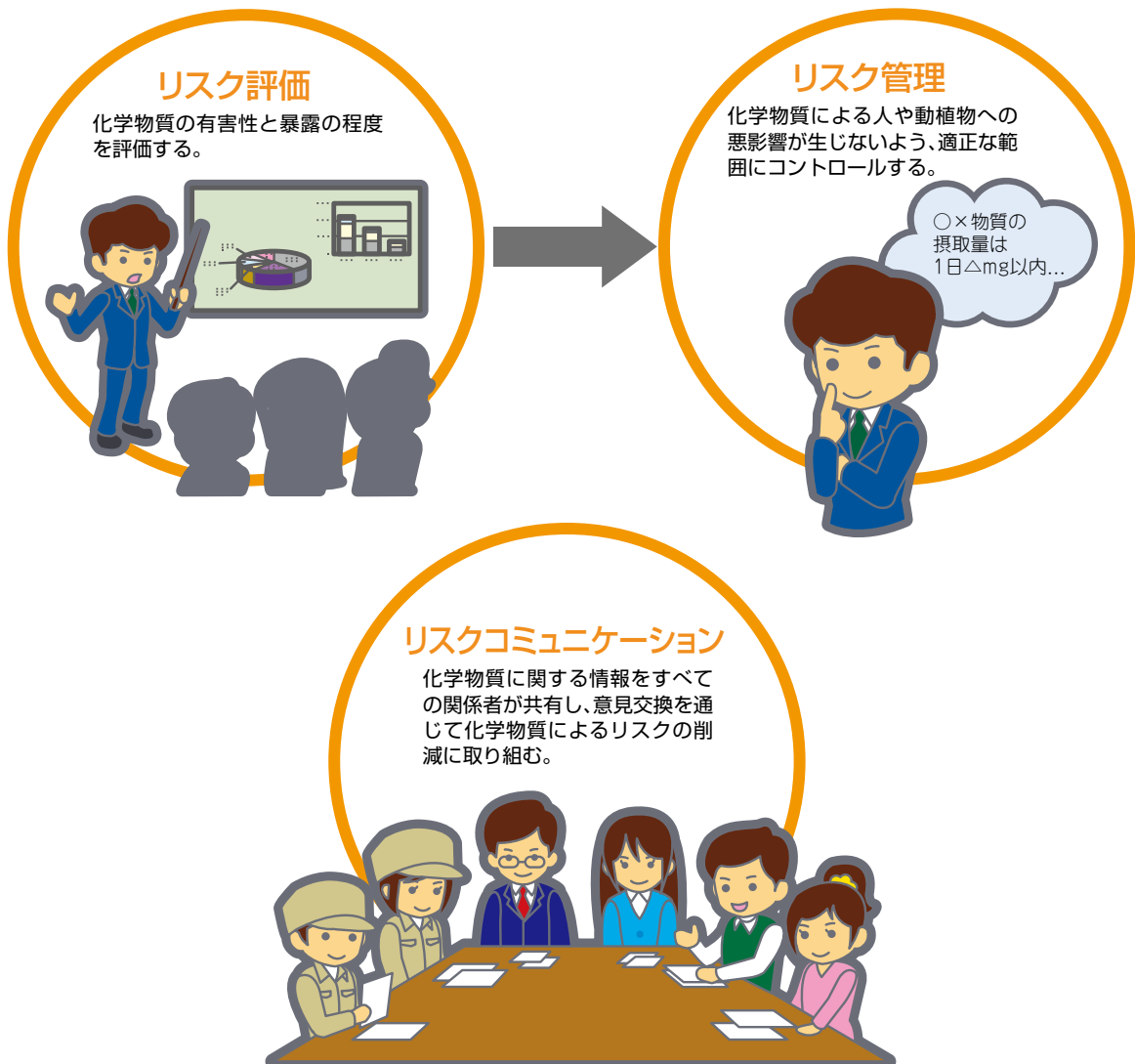
市民は、まず身の回りの化学物質に少しでも関心を持ち、公表されたデータを見ることが期待されます。PRTR 制度で情報が公表されるようになって、私たちが関心を持ってそれを見なければ制度を活かすことができません。毎年一人でも多くの市民が PRTR データに目を通し、それをきっかけに自らの暮らしを見直したり、事業者や行政とコミュニケーションを図ったりすることが、社会全体で化学物質による環境リスクを減らしていく取組につながります。

## ② リスクコミュニケーション

PRTR 制度による「化学物質に関する情報」を市民、事業者、行政が共有し対話することにより、化学物質による環境リスクを減らしていくことが期待されています。一人一人が生活を見直し、少しでも化学物質の使用や排出を削減するように心がけることと併せて、地域全体で化学物質による環境リスクを減らす取組を進めるためには、市民、事業者、行政の間でコミュニケーションを図ることが欠かせません。

### (1) リスクコミュニケーションとは

化学物質による人や動植物への影響を把握するには、科学的な知見が必要です。影響の度合いがわかったら、次は化学物質の量が人や動植物に悪影響を及ぼすレベルにならないよう、適切に管理することが必要になります。より合理的にリスクを管理し削減するためには、市民、事業者、行政が化学物質に関する情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通を図ることが必要です。これを「リスクコミュニケーション」と呼んでいます。市民や事業者、行政がそれぞれ自分たちの都合だけを主張しては、化学物質による環境リスクを削減する取組がなかなか進みません。そこで、お互いの考えていることを理解しあい、力を合わせて取組を進めようとするものです。



## (2) 近隣の工場とリスクコミュニケーションしたいときは

「近所のあの工場からどのような化学物質が出ているか、以前から不安だった」という方は、リスクコミュニケーションしたいと思われるかもしれません。また、日頃不安がなくてもリスクコミュニケーションを実施することは重要です。なぜなら、化学物質に対するイメージや考え方は人それぞれだからです。

このような状態で、万が一、工場で事故が発生してその影響が住民にも及ぶようなことがあった場合、感情的な対立が先行して、建設的な話し合いや有効な対策の推進が困難であったり遅れたりすることになりかねません。日頃から住民、事業者、行政が情報を交換し、信頼関係を築いておくことが必要です。

では、どのようにリスクコミュニケーションを始めればよいのでしょうか。

### 1) 住民からアクションを起こす

まずは事業者が化学物質についてどのような取組をしているかを知ることから始めるとよいでしょう。事業者には必ず問い合わせ窓口がありますので、そこに「PRTR届出状況について説明してほしい」「環境報告書に掲載されている情報について解説してほしい」などと要請すれば対応してもらえることが多いでしょう。個人レベルでも良いのですが、お互いに関心のあるグループ単位で要請した方が、事業者としても対応しやすいでしょう。

また、市役所等の環境担当部署に「リスクコミュニケーションしたいので仲介してほしい」と依頼すれば対応してくれる場合もあります。さらに、事業者と話し合う前に、個別事業所のデータを入手したり、他の事業所と排出量を比較したりして予習しておくくと効果的です。

最初から難しい議論をしようと思わず、まずは「分からないことを聞く」、「自分たちが何を考えているか知らせる」、また「事業者の取組を知る」ことから始めましょう。



### 2) 事業者からアクションを起こす

事業者は、地域清掃への協力、お祭り等のイベントへの協賛など、地域社会との関わりを持っていることもあります。おそらくは総務部門が担当していることと思いますので、環境安全部署の方はすでに地域住民との信頼関係がある部署のチャンネルを通じてコミュニケーションを始めれば、テーマを化学物質に移しても、比較的すんなりとコミュニケーションが進められると思われます。

また、市役所等に相談すれば、町内会長など地域住民の核となる方を紹介してくれる場合もあります。



### 3) 行政からアクションを起こす

行政は、市民と事業者が協力して、自主的にリスクコミュニケーションが推進されるよう支援することが求められます。事業者や市民に「リスクコミュニケーションの考え方」「実践方法」「得られるメリット」などを説明しリスクコミュニケーションを促すとともに、事業者や市民から「リスクコミュニケーションしたい」という手が上がったら、積極的に協力しましょう。

## 「化学物質に関する冊子」

### 化学物質ファクトシート

環境省では、第一種指定化学物質について、個々の情報をわかりやすく整理し、簡素にまとめた「化学物質ファクトシート」を作成しています。ファクトシートは毎年発表されるPRTR集計結果やモニタリング結果に併せて改訂されています。



ファクトシートには、以下のような項目について、専門家以外の方にもわかりやすく整理されています。

- ① 物質名、別名、PRTR 政令番号、CAS 番号、構造式
- ② 用途（その化学物質がどのように使用されているか）
- ③ 排出・移動（環境中への排出量・移動量、主な排出源、主な排出先など）
- ④ 環境中での動き（環境中に排出された後の化学物質の動き、当該物質が主に存在する媒体など）
- ⑤ 健康影響（人の健康への有害性についての記載、または PRTR 対象化学物質に選ばれる理由となった毒性等について）
- ⑥ 基本的な情報の一覧表（性状、生産量、排出・移動量、PRTR 対象選定理由、環境データ、適用法令等）
- ⑦ 引用・参考文献及び用途に関する参考文献のリスト

化学物質ファクトシートは、環境省のホームページ上で見ることができます。冊子の入手方法についても紹介していますので、ぜひご参照ください。

HP <http://www.env.go.jp/chemi/communication/factsheet.html>

### かんたん化学物質ガイド



環境省では、家庭や自動車等の身近なところから排出される化学物質について、市民が自らの生活と関連付けて考え、化学物質の正しい利用や廃棄など、市民一人一人ができる環境リスクの低減のための取組について考えるきっかけとなるよう、子どもにも親しみやすい小冊子「かんたん化学物質ガイド」を作成し、配布しています。

かんたん化学物質ガイドシリーズは、①生活編（総論編）、②乗り物編、③洗剤編、④殺虫剤編、⑤塗料・接着剤編が発行されています。

かんたん化学物質ガイドは、環境省のホームページ上で見ることができます。冊子の入手方法についても紹介していますので、ぜひご参照ください。

HP <http://www.env.go.jp/chemi/communication/guide/index.html>



## コラム 2

リスクコミュニケーションを支援するしくみ

### 「化学物質アドバイザー」



化学物質やその環境リスクに関する話は、とかく専門的になりがちで、一般の市民には理解できないことも多々あります。また、事業者の中にも「化学物質は使っているが、詳しい知識が必ずしもあるわけではなく、うまく説明できない」場合もあります。そのような状態でコミュニケーションをしても、相手の説明が理解できなかったり、場合によっては「難しい言葉ばかりを並べ立てられて言いくるめられてしまった」というようなマイナスイメージを持ってしまったりします。

そこで、環境省では化学に関する知識が少ない市民や化学物質の専門家でない事業者を知識の面から支援する仕組みとして「化学物質アドバイザー」制度を設けています。

化学物質アドバイザーの活躍場面はリスクコミュニケーションの場だけではなく、この他に「身の回りの化学物質について」、「界面活性剤（洗剤）について」など皆さんの生活に密接した化学物質をより理解していただけるようお手伝いをしています。もちろん、行政や事業者の内部研修会や行政が主催する各種説明会にも講師として参加し、幅広く活躍しています。



化学物質アドバイザーに関するお問い合わせ先は下記 URL で確認して下さい。

HP <http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/index.html>

「GHS」(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)

GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals) とは、化学品の危険有害性(ハザード)ごとの各国の分類基準及びラベルや安全データシートの内容を調和させ、世界的に統一したルールとして提供するというものです。

GHS で分類・表示される危険有害性としては、爆発性や引火性、急性毒性、発がん性、水生環境有害性などがあり、それぞれに危険有害性の程度に応じたシンボルマーク(絵表示)と、「危険」または「警告」という注意喚起のための表示(注意喚起語)などが決められています。さらに、ラベルには、「飲み込むと生命に危険」といった危険有害性情報、応急処置や廃棄方法といった注意書きが付けられます。

GHS は、世界的に統一された分類・表示により、化学品の危険有害性を分かりやすくすることを目的とした仕組みであり、この制度の導入により、化学品による事故などを減らすことが期待されます。また、化学品を購入する時に、人の健康や環境に配慮した製品を選択することができるようになります。

具体的には、化学品の製造業者や輸入業者などが、GHS で決められた基準に従って化学品を分類し、表示を行っていくこととなります。販売業者や消費者などは、この分類表示により、身の回りにある化学品の危険有害性をより正しく知ることができるようになります。

また、それらの表示に従って化学品を正しく取り扱うことで、誤った取り扱いによって引き起こされる事故などを防ぎ、人の健康及び環境の保護がより進むことが期待されます。

**GHSのシンボルマーク**

		
可燃性/引火性ガス、引火性エアゾール 引火性液体、可燃性固体 自己反応性化学品、自然発火性液体 自然発火性固体、自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品、有機過酸化物	火薬類、自己反応性化学品 有機過酸化物	高圧ガス
		
急性毒性(高毒性)	呼吸器感受性、生殖細胞変異原性 発がん性、生殖毒性 特定の臓器/全身毒性(単回暴露) 特定の臓器/全身毒性(反復暴露) 吸引性呼吸器有害性	急性毒性(低毒性)、皮膚刺激性 眼刺激性、皮膚感受性 気道刺激性、麻酔作用
		
水生環境有害性	金属腐食性物質、皮膚腐食性 眼に対する重篤な損傷性	支離性/酸化性ガス 酸化性液体、酸化性固体

HP <http://www.env.go.jp/chemi/ghs/>

# 3 PRTRデータの活用例

## (1) NGO・NPOの取組

### ●特定非営利活動法人 有害化学物質削減ネットワーク (略称：Tウォッチ)

HP <http://www.toxwatch.net/>

PRTR データを市民が有効活用できるように、わかりやすく情報提供する市民のネットワークです (2002 年任意団体として発足、2004 年 10 月 NPO 法人として認可)。PRTR 情報を利用して、有害化学物質削減に取り組んでおり、ホームページ上の PRTR 検索データベースでは、さまざまな検索方法で PRTR 届出情報の閲覧や比較をすることができます。

例) 個別の工場や会社を  
名称・業種・住所で検索 など



### ●エコケミストリー研究会

HP <http://www.ecochemi.jp>

1990 年に「化学物質と環境との調和」という目標を掲げて設立され、幅広い立場の人が化学物質に関する最新情報を共有し、意見交換できる場を提供しています。ホームページ上の PRTR 情報には、リスクの高い地域や物質が分かる「市区町村別の毒性重み付け排出量」とその順位や原因物質、自主管理の目標となる「環境管理参考濃度」、対象化学物質の「用途や毒性・物性」などが分かりやすく掲載されています。



この他にもさまざまな団体が活動が行われています。

## (2) 地方自治体の取組

都道府県や政令指定都市等において、PRTTRデータを活用した化学物質に関する取組やリスクコミュニケーションを推進するための取組が行われていることがあります。ここではそうした取組の事例として、1) 愛知県と名古屋市における化学物質セミナーの開催の取組と、2) 福島県が高校生を対象に実施したリスクコミュニケーションの事例発表・交流会の取組を以下に紹介しましょう。

### 1) 愛知県と名古屋市における化学物質セミナーの開催

愛知県と名古屋市では、県民及び事業者を対象とした化学物質に関するセミナーを定期的に行っています。

#### ① 県民向けの化学物質セミナー

県民の化学物質に対する理解と関心を深めることを目的として開催されました（平成24年1月）。まず、県職員から、県内における化学物質の排出量等の現状及び化学物質対策に係る取組について説明がありました。次に、県内事業者から、化学物質の適正管理など、事業活動における環境負荷削減の取組について紹介されました。最後に、学識経験者から、化学物質と健康との関わりとして、化学物質のリスク評価やリスク管理の重要性について講演がありました。



#### ② 事業者向けの化学物質適正管理セミナー

化学物質を取扱う事業者を対象に、化学物質の適正な管理を一層推進することを目的として開催されました（平成24年2月）。

まず、県職員から、県内における化学物質の排出量等の現状及び化学物質対策に係る取組について説明がありました。

次に、化学物質アドバイザー（66ページ参照）から、化学物質管理を行う際の関連法令・制度等の動向について説明がありました。また、工場での実務経験を活かして、昨今注目が高まる地震等の災害対策について、化学物質等の購入から廃棄に至るまでの具体的な対策例についても紹介されました。

最後に、県内事業者から、社会とのコミュニケーションに関する独自の取り決めの紹介や化学物質管理の実施状況、CSR活動・地域コミュニケーション活動の取組状況などについて紹介されました。



## 2) 福島県が高校生を対象に実施したリスクコミュニケーションの事例発表・交流会の取組

### ①高校生とリスクコミュニケーション

福島県では、事業者だけではなく広く一般県民へ化学物質のリスクコミュニケーションの周知・啓発を進めるために、昨年度から工業高校を中心にリスクコミュニケーションの事例発表・交流会の取組を行っています。高校生に『リスクコミュニケーション』や『化学物質の環境リスク』、『事業者の環境への取組』に対する理解を深めてもらい、将来社会に出てから地域の安全・安心に向けて積極的に取り組んでもらうことを期待した事業です。

### ②事例発表・交流会の様子

環境や化学を専攻する3年生を対象に、午後の2時限を使って、化学物質アドバイザー（66ページ参照）から身のまわりの化学物質とその付き合い方について基調講演があり、続いて福島県内の事業所から環境への取組に関する事例発表がありました。その後に高校生と事業所との間で意見交換（質疑応答）が行われました。今年度は、事業者が工場内でどのように化学物質管理を行っているかが分かるように、検知管を使った労働環境測定の実験を行ったり、リスクアセスメントの考え方に踏み込んだ講演になりました。

### ③取組の成果

事例発表・交流会に先立って実施された事前アンケートでは、東日本大震災を機に、日常生活の中で環境に配慮して取組、環境に対する関心が高まっていることをうかがい知ることができました。「化学物質」に関しては、その種類や性質、有害性・危険性に関することから工場における管理の状況まで幅広い質問が上がりました。

これに対し、事例発表・交流会後のアンケートでは、内容が難しかったという意見がある一方で、生活の中にある化学物質について考える機会となった、身近にある企業の取組を知ることが安心感につながった等の感想が寄せられました。



### ④取組の成果・今後の展開

福島県では、高校の専門科やカリキュラムに応じた分かりやすい内容となるよう工夫しつつ、今後も事例発表・交流会を継続して実施する予定です。事業所にとっても、こうしたリスクコミュニケーションを通じて、自らの“環境配慮や地域貢献”の取組をPRすることで、地域との信頼関係の醸成や地域の優秀な人材の確保につながることが期待されます。



### (3) 企業の取組

地域全体の環境リスクを減らすために事業所、市民、行政が共に話し合い、行動していくことが求められています。ここでは、事業所におけるリスクコミュニケーションの取組事例をみてみましょう。この事例は、平成24年2月に埼玉県にあるガラスびんを製造している企業で行われたものです。

#### ① 実施のきっかけ

このリスクコミュニケーションは、埼玉県の支援を受けて開催されました。この事業所は、これからの企業の存続には、地域社会とのコミュニケーションが必要と考えていた中、県の働きかけがきっかけとなり実現したものです。開催に当たっては、事業者と行政の間で事前打合せが行われ、参加者や説明資料、工場見学コースの決定、当日のスケジュールおよび役割分担の明確化などの準備が進められました。

また、事業者は事前にアンケート調査を実施し、住民の関心事などを把握しました。このとき、今回のリスクコミュニケーションの目的についても文書でお知らせしました。

#### ② 実施された様子

このリスクコミュニケーションには、住民17名、行政(県、市)5名、事業所11名、化学物質アドバイザー1名、ファシリテーター1名、傍聴者26名の合計61名が参加し、事業所の会議室で開催されました。当日のプログラムは、午後1時半に開会し、県および事業者から開会の挨拶や工場の概要説明、県から「環境コミュニケーションの意義について」等の講演、工場見学の後、事業所から環境への取組について説明があり、引き続き参加者間による意見交換が1時間程度行われ、午後5時に閉会しました。昨年の震災の影響を受け、緊急時の対応についても議論されました。

#### ③ 住民との意見交換内容、事業所の感想

住民からは事業者に対して、

- 緊急事態への対応や住民への連絡方法は？
- どのような原料を使用し、どのような方法で製品を作るのか？
- 排出される化学物質による大気・水質に対する影響は？
- 廃棄物のリサイクル状況は？
- 代替エネルギーなど温暖化への対応状況は？
- 事業活動に伴う公害の防止と環境保全対策は？

などの質問やご意見がありました。

リスクコミュニケーションを実施した後のアンケート結果では、ほとんどの人が参加してよかったとの評価でした。また、企業の環境への取組が良く理解できた、定期的に情報公開することによって地元住民に対して企業の姿勢を理解してもらえる、とのコメントがありました。

開催した事業者の感想は、市民の意見を聴く貴重な機会を得ることが出来、非常に有意義であったとのことでした。また、開催後に実施したアンケートの結果から事業者の環境への取組が評価され、地域との信頼関係が確認されたとのことでした。

リスクコミュニケーションの事例は、環境省ホームページで公開されています。

HP <http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/jisseki/jirei.html>



## V

## もっと知りたい時には

<b>1 法律に関すること</b>	74
(1) 化学物質排出把握管理促進法の概要	74
(2) 化管法の見直しについて	75
コラム4： 情報提供を受け付ける窓口「PRTR目安箱」	77
(3) 第一種指定化学物質リスト	78
(4) 商品に表示されている第一種指定化学物質の名称	94
(5) ファイル記録事項開示請求書	99
<b>2 PRTRに関連する用語の解説</b>	100
環境リスク 排出量 移動量 取扱量 化学物質管理指針 有害性 発がん性 変異原性 感作性 生態毒性 オゾン層破壊物質 CAS番号 レスポンスシブル・ケア 環境マネジメントシステム 環境報告書 MSDS 指定化学物質等取扱事業者	
<b>3 関連サイトアドレス集</b>	104
<b>4 各自治体のPRTR担当窓口</b>	106
<b>5 索引</b>	111

# 1 法律に関すること

## (1) 化学物質排出把握管理促進法の概要

化管法の正式名称は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」で、1999年(平成11年)7月13日に公布されました。その目的や対象となる化学物質、事業者、データの届出や集計、公表について次のようなことを定めています。

### 1) 法律の目的

#### ●化管法の目的(第1条)

化管法は、有害なおそれのある様々な化学物質の環境への排出量等を把握することなどにより、化学物質を取り扱う事業者の自主的な化学物質の管理の改善を促進し、化学物質による環境の保全上の支障が生ずることを未然に防止することを目的としています。

### 2) 法律の概要

#### ●化管法の対象化学物質(第2条)

対象となる化学物質は、人の健康や生態系に有害なおそれがあるなどの性状を有するもので、環境中にどれくらい存在しているかによって「第一種指定化学物質」と「第二種指定化学物質」の2つに区分しています。このうちPRTR制度の対象となるのは、「第一種指定化学物質」です。

対象化学物質の選定は、有害性についての国際的な評価や生産量などを踏まえ、専門家の意見を聴いて決定しています。

#### ●化管法の対象事業者(第2条)

業種、従業員数、対象化学物質の年間取扱量等で一定の条件に合致する事業者に、環境中への排出量及び廃棄物としての移動量についての届出を義務付けています。

#### ●事業者による化学物質の管理の改善の促進(第4条)

事業者には、国が定める技術的な指針(化学物質管理指針)に留意しつつ、化学物質の管理を改善・強化します。また、その環境への排出や管理の状況などについて関係者によく理解してもらえよう努めることが求められています。

#### ●情報の流れ(第5条、第8～第11条)

事業者による届出は都道府県を經由して国に集められ、集計されたのち、その他の排出源(家庭、農地、自動車など)からの排出量と併せて公表します。国は届出データを都道府県に提供しますので、都道府県は地域のニーズに応じてデータを集計し公表することができます。国は、国民からの請求に基づき、個別事業所データを開示します。

#### ●国による調査の実施(第12条)

国は、PRTRの集計結果などを踏まえて、環境モニタリング調査や、人の健康や生態系への影響についての調査を行います。

#### ●化学物質等安全データシート(MSDS)の交付の義務付け(第14条)

事業者が指定化学物質やそれを含む製品を他の事業者に譲渡・提供する際に、その相手方に対して化学物質等安全データシート(MSDS)を交付することにより、その成分や性質、取扱い方法などに関する情報を提供することを義務付けています。

#### ●国および地方公共団体による支援措置(第17条)

化管法では、さらに国や地方公共団体が次のような支援措置に努めるよう定めています。

1. 化学物質の有害性などの科学的知見の充実
2. 化学物質の有害性などのデータベースの整備と利用の促進
3. 事業者に対する技術的な助言
4. 化学物質の排出や管理の状況などについての国民理解の増進
5. 3.や4.のための人材育成



## (2) 化管法の見直しについて

これまで化管法や PRTR 制度は、以下のような経緯をたどってきました。

- 1999年7月 化管法 公布
- 2000年3月 化管法 施行
- 2001年4月 PRTR 制度がスタート
- 2002年4月 事業者による排出量・移動量の届出開始
- 2003年3月 国が届出結果を公表開始

化管法は附則第三条により、施行後7年(2007年3月)を経過した場合において、法律の施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講じることとされていました。これを受け、中央環境審議会と産業構造審議会は2007年2月から合同で審議会を開催し、化管法の施行状況に対する評価や課題の抽出を行うとともに、国際的な整合性に配慮しつつ、今後の方向性について検討を行い、2007年8月に中間とりまとめとして公表しました。

### 化管法見直し合同会合中間とりまとめ(概要)

PRTR 制度に関する課題と方向性	化管法の役割と施行状況
<p><b>方向性 1</b></p> <p><b>施行後の社会動向等を踏まえた仕組みの効率化</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象物質の見直し           <ul style="list-style-type: none"> <li>● GHS との整合化に留意し、化学物質の有害性情報やリスク評価の結果等を活用</li> </ul> </li> <li>2. 一部の非対象業種の対象化妥当性の検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 建設業、医療業等の現行非対象業種の対象化の実行可能性について検討</li> </ul> </li> <li>3. 届出事項の追加           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物処理方法及び放流先の下水道名を届出事項に追加</li> </ul> </li> <li>4. 排出量の把握手法や推計手法の改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 算出マニュアルの継続的改善を実施</li> </ul> </li> <li>5. 未届出事業者に対する対応           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 悪質な未届出事業者に対しては、厳正に対処</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業者は、化学物質自主管理指針に基づき、管理計画を作成する等して自主管理を促進</li> <li>● PRTR 制度は、過去 5 ケ年度分の届出実績を有し、対象化学物質による環境負荷を低減させる点で一定の効果あり</li> <li>● MSDS 制度も事業者間の情報伝達の手法としてほぼ定着</li> <li>● 現行の役割を維持することが適当</li> </ul>
<p><b>方向性 2</b></p> <p><b>PRTR データの多面的利用の促進</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別情報の開示請求方式を国による公表方式に変更</li> <li>2. 地図情報等の活用による、わかりやすい情報の提供           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地方公共団体は、地域特性のニーズに対応した取組</li> <li>● 事業者は、環境リスク評価やリスクコミュニケーションに活用</li> </ul> </li> </ol>	<p><b>MSDS 制度に関する課題と方向性</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業者は記載内容の充実に努めるとともに、自主管理に MSDS をより一層活用</li> <li>2. GHS との整合に向けた対応の検討</li> </ol>
	<p><b>化学物質の自主管理に関する課題と方向性</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら事業所周辺の環境リスク評価を行い、リスク懸念の大きい物質から優先的に管理を強化</li> <li>2. 高懸念物質等については排出削減等の自主管理をより一層強化</li> <li>3. 国は、そのためのガイダンスの普及やモデル等の使い勝手の向上等により支援</li> <li>4. 国は、例えば業種ごとの自主管理の取組状況に関する発表の場を設定する等、国民が産業界の取組を把握できるよう検討</li> </ol>

詳細は環境省ホームページをご参照ください。

HP <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8709>

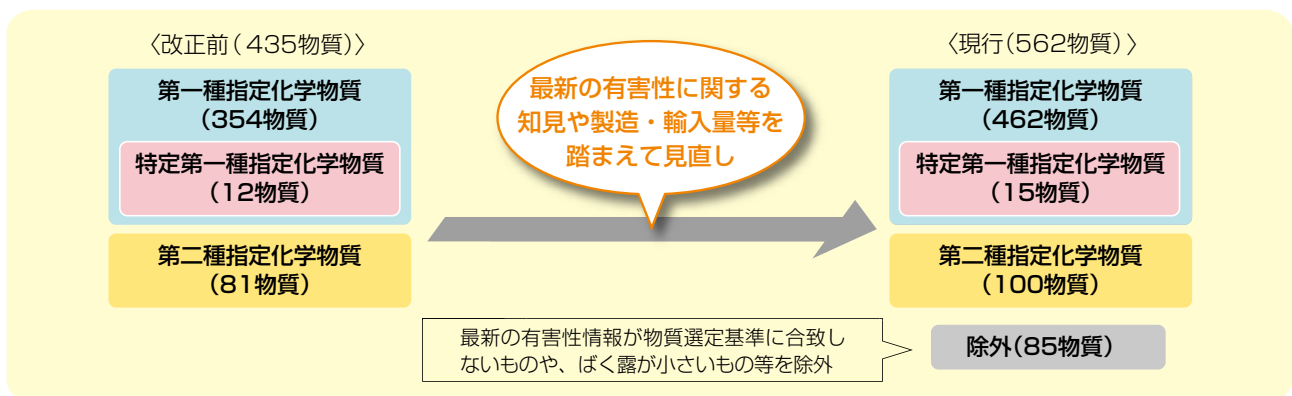
## 化管法政省令の改正の概要

平成 20 年 11 月、化管法施行令の一部が改正されました。この改正に伴い、平成 22 年度から対象事業者は改正後の第一種指定化学物質（78～93 ページ参照）の排出量・移動量を把握し、平成 23 年度から届出を始めました。また、平成 22 年 4 月、化管法施行規則の一部が改正され、平成 23 年度以降は、改正後の様式第 1 で届出が行われています。

### 改正内容

#### ① 第一種指定化学物質の変更

- PRTR 制度及び MSDS 制度の対象となる「第一種指定化学物質」について、354 物質から 462 物質に変更
- 第一種指定化学物質のうち、PRTR 制度の届出のすそ切り要件がより厳しく設定されている「特定第一種指定化学物質」について、現行 12 物質から 15 物質に変更
- MSDS 制度の対象となる「第二種指定化学物質」について、現行 81 物質から 100 物質に変更



#### ② 業種の追加

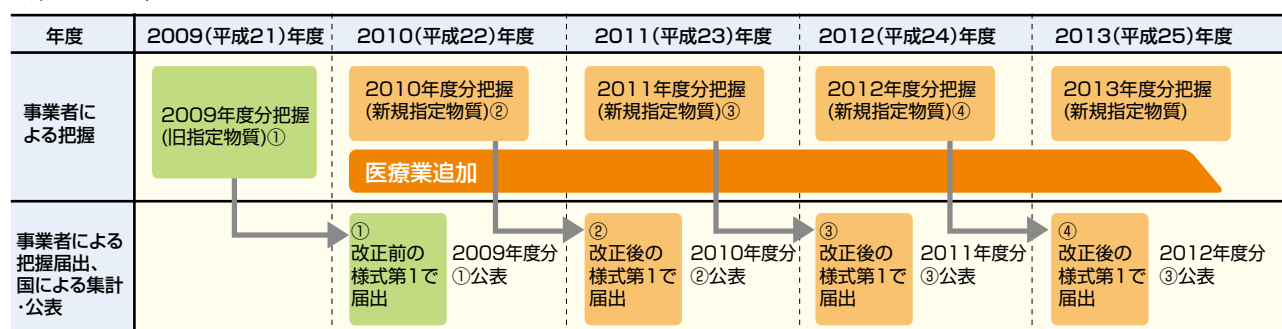
- 届出を行う義務を負う事業者（第一種指定化学物質等取扱事業者）となり得る対象業種に「医療業」が追加
- 改正後の PRTR 制度の対象となり得る業種

1 金属鉱業	7 下水道業	13 燃料小売業	19 計量証明業
2 原油及び天然ガス鉱業	8 鉄道業	14 洗濯業	20 一般廃棄物処理業
3 製造業	9 倉庫業	15 写真業	21 産業廃棄物処理業
4 電気業	10 石油卸売業	16 自動車整備業	22 医療業
5 ガス業	11 鉄スクラップ卸売業	17 機械修理業	23 高等教育機関
6 熱供給業	12 自動車卸売業	18 商品検査業	24 自然科学研究所

#### ③ 届出事項の追加

- 届出書様式第 1 による届出事項として、「移動先の下水道処理施設の名称」、「廃棄物の処理方法」、「廃棄物の種類」が追加

### スケジュール



HP <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=10428>

「PRTR 目安箱」

化管法に基づく PRTR 制度では、対象事業者は事業活動に伴う第一種指定化学物質の排出量・移動量を、事業者が自ら把握して主務大臣に届け出ることが義務付けられています。また、届出を行わず、又は虚偽の届出をした者には、過料が適用されることが同法に規定されています。

化管法は、PRTR 制度及び MSDS 制度の適切な実施等により、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的としています。PRTR データは、第一種指定化学物質の排出の状況に関する理解を深める上の基本となる情報であり、その適切な届出が強く求められているところです。

このような状況から、PRTR データの届出に関し、PRTR データの信頼性や届出等にかかる問題について、広く国民の皆様から情報提供を受け付ける窓口として「PRTR 目安箱」が設置されています。

詳しくは環境省のホームページ「PRTR インフォメーション広場> PRTR 目安箱」をご参照ください。

HP <http://www.env.go.jp/chemi/prtr/meyasubako/index.html>



### (3) 第一種指定化学物質リスト

- 名称など、正式なものは環境省ホームページの対象化学物質の情報をご参照ください。
- で塗られているものは、特定第一種指定化学物質です。  
特定第一種指定化学物質については、8 ページをご参照ください。
- 用途の合成樹脂原料、合成原料等の後の ( ) 内には、当該指定化学物質を使用して生成された合成樹脂等の用途や樹脂名等を示しています。
- 平成 22 年度までの届出対象物質リストは、環境省ホームページの改正施行令と現行施行令における対象物質の対照表をご参照ください。

HP [http://www.env.go.jp/chemi/prtr/archive/target\\_chemi.html](http://www.env.go.jp/chemi/prtr/archive/target_chemi.html)

#### 第一種指定化学物質リスト 平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令番号	CAS番号	名称(和文)	用途
1	-	亜鉛の水溶性化合物	金属表面処理、乾電池、殺菌剤
2	79-06-1	アクリルアミド	合成樹脂原料(凝集剤、土壌改良剤、接着剤、紙力増強剤)、加工剤(繊維改質)
3	140-88-5	アクリル酸エチル	合成樹脂原料(アクリル繊維、塗料、接着剤、アクリルゴム、合成皮革)
4	-	アクリル酸及びその水溶性塩	合成樹脂原料(高吸水性樹脂、増粘剤、凝集剤)、加工剤(繊維改質)
5	2439-35-2	アクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチル	合成樹脂原料(凝集剤、エマルジョン改質剤、繊維処理剤、粘着剤、接着剤)
6	818-61-1	アクリル酸2-ヒドロキシエチル	合成樹脂原料(アクリル樹脂)、合成原料(接着剤、乳化剤、合成樹脂改質剤)
7	141-32-2	アクリル酸ノルマルブチル	合成樹脂原料(アクリル樹脂)、合成原料(接着剤、乳化剤、合成樹脂改質剤)
8	96-33-3	アクリル酸メチル	合成樹脂原料(アクリル繊維、塗料、接着剤、アクリルゴム、合成皮革)
9	107-13-1	アクリロニトリル	合成樹脂原料(アクリル系合成繊維、合成ゴム、ABS樹脂、AS樹脂)
10	107-02-8	アクロレイン	合成原料(医薬品、アリルアルコール、グリセリン、架橋剤)、合成樹脂原料(アクリルフォーム)
11	26628-22-8	アジ化ナトリウム	試薬(SCN、S2O3等の検出用)、防腐剤、起爆剤(自動車用エアバッグ、航空機の緊急脱出用シュー)
12	75-07-0	アセトアルデヒド	合成原料(酢酸、過酢酸、無水酢酸、酢酸エチル)、農業(防かび剤)、香料、還元剤、防腐剤
13	75-05-8	アセトニトリル	合成原料(ビタミンB1、サルファ剤、香料、染料)溶剤、電池の電解液
14	75-86-5	アセトンシアノヒドリン	合成原料(メタクリル酸、メタクリル酸エステル)
15	83-32-9	アセナフテン	合成原料(染料、農業)
16	78-67-1	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	重合開始剤、加工剤(ゴム、合成樹脂の発泡剤)
17	90-04-0	オルト-アニシジン	合成原料(各種染料)
18	62-53-3	アニリン	合成原料(染料、媒染料、ゴム薬品、火薬、ハイドロキノン、医薬品、ウレタン樹脂原料)
19	82-45-1	1-アミノ-9,10-アントラキノン	合成原料(染料)
20	141-43-5	2-アミノエタノール	添加剤(洗剤、界面活性剤、化粧品、潤滑油)、溶剤、洗浄剤(半導体用)、繊維柔軟剤
21	1698-60-8	5-アミノ-4-クロロ-2-フェニルピリダジン-3(2H)-オン(別名クロリダゾン)	農業(除草剤)
22	120068-37-3	5-アミノ-1-[2,6-ジクロロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-3-シアノ-4-[(トリフルオロメチル)スルフィニル]ピラゾール(別名フィプロニル)	農業(殺虫剤、殺虫殺菌剤)
23	123-30-8	パラ-アミノフェノール	合成原料(医薬品、染料)、老化防止剤(ゴム用)、染料、写真現像薬

第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
24	591-27-5	メタアミノフェノール	合成原料(染料、医薬品、農薬、アラミド繊維原料)、染毛剤
25	21087-64-9	4-アミノ-6-ターシャリ-ブチル-3-メチルチオ-1,2,4-トリアジン-5(4H)-オン(別名メトリブジン)	農薬(除草剤)
26	107-11-9	3-アミノ-1-プロペン	合成原料(農薬)、高分子化合物の改良剤、触媒、染料固着剤
27	41394-05-2	4-アミノ-3-メチル-6-フェニル-1,2,4-トリアジン-5(4H)-オン(別名メタミトロン)	農薬(除草剤)
28	107-18-6	アリルアルコール	合成原料(エビクロロヒドリン、香料、難燃剤、医薬品、ジアリールフタレート樹脂)
29	106-92-3	1-アリルオキシ-2,3-エポキシプロパン	合成原料(染料、エポキシ樹脂)、加工剤(繊維)、安定剤(樹脂、農薬)
30	-	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)	界面活性剤
31	-	アンチモン及びその化合物	樹脂難燃助剤、顔料、蓄電池、半導体、ガラス材料
32	120-12-7	アントラセン	合成原料(染料、カーボンブラック)
33	1332-21-4	石綿	断熱材、建材原料(補強剤)、摩擦材
34	4098-71-9	3-イソシアナトメチル-3,5,5-トリメチルシクロヘキシル=イソシアネート	合成樹脂原料(ポリウレタン)、接着剤、加工剤(表面処理剤)
35	78-84-2	イソブチルアルデヒド	合成原料(ネオペンチルグリコール、有機合成)
36	78-79-5	イソプレン	合成樹脂原料(ポリイソプレン(インプレンゴム、ブチルゴム))
37	80-05-7	4,4'-イソプロピリデンジフェノール(別名ビスフェノールA)	合成樹脂原料(エポキシ樹脂、ポリカーボネート樹脂、ポリスルホン)、安定剤(塩化ビニル用)、酸化防止剤
38	4162-45-2	2,2'-[イソプロピリデンビス[(2,6-ジプロモ-4,1-フェニル)オキシ]]ジエタノール	難燃剤
39	22224-92-6	N-イソプロピルアミノホスホン酸O-エチル-0-(3-メチル-4-メチルチオフェニル)(別名フェナミホス)	農薬(殺虫剤)
40	149877-41-8	イソプロピル=2-(4-メチルピフェニル-3-イル)ヒドラジノホルマート(別名ピフェナゼート)	農薬(殺虫剤)
41	66332-96-5	3'-イソプロポキシ-2-トリフルオロメチルベンズアニリド(別名フルトラニル)	農薬(殺菌剤)
42	96-45-7	2-イミダゾリジンチオン	加硫促進剤
43	13516-27-3	1,1'-[イミノジ(オクタメチレン)]ジグアニジン(別名イミノクタジン)	農薬(殺菌剤)
44	-	インジウム及びその化合物	銀口ウ、銀合金接点、ハンダ、低融点合金、液晶セル電極用、歯科用合金、防食アルミニウム
45	75-08-1	エタンチオール	腐臭剤(LPG用)、合成原料(農薬、医薬品、ゴム薬品)
46	76578-14-8	エチル=2-[4-(6-クロロ-2-キノキサリニルオキシ)フェノキシ]プロピオナート(別名キサロホップエチル)	農薬(除草剤)
47	36335-67-8	O-エチル=O-(6-ニトロ-メタトリル)=セカンダリ-ブチルホスホルアミドチオアート(別名ブタミホス)	農薬(除草剤)
48	2104-64-5	O-エチル=O-4-ニトロフェニル=フェニルホスホノチオアート(別名EPN)	農薬(殺虫剤)
49	40487-42-1	N-(1-エチルプロピル)-2,6-ジニトロ-3,4-キシリジン(別名ペンディメタリン)	農薬(除草剤)
50	2212-67-1	S-エチル=ヘキサヒドロ-1H-アゼピン-1-カルボチオアート(別名モリネート)	農薬(除草剤)
51	149-57-5	2-エチルヘキサ酸	ペンキのドライヤー、合成原料(グリース)、安定剤(塩化ビニル樹脂用)
52	83130-01-2	エチル=(Z)-3-[N-ベンジル-N-[[メチル(1-メチルチオエチリデンアミノオキシカルボニル)アミノ]チオ]アミノ]プロピオナート(別名アラニカルブ)	農薬(殺虫剤)
53	100-41-4	エチルベンゼン	合成原料(スチレン)、溶剤
54	98886-44-3	O-エチル=S-1-メチルプロピル=(2-オキシ-3-チアゾリジニル)ホスホノチオアート(別名ホスチアゼート)	農薬(殺虫剤)

## 第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名 称 (和 文)	用 途
55	151-56-4	エチレンイミン	合成原料(タウリン、ポリエチレンイミン、農薬)
56	75-21-8	エチレンオキシド	合成原料(エチレングリコール、エタノールアミン、1,4-ジオキサン、界面活性剤)、殺菌剤
57	110-80-5	エチレングリコールモノエチルエーテル	溶媒(各種樹脂用、印刷インキ)、医薬品抽出剤
58	109-86-4	エチレングリコールモノメチルエーテル	溶媒(各種樹脂用、印刷インキ、ポリサルファイトゴム製造用)、電解コンデンサー、ガンリン添加剤
59	107-15-3	エチレンジアミン	加工剤(繊維防しわ剤、紙の湿潤強化剤)、界面活性剤、キレート剤、合成樹脂原料(エポキシ樹脂硬化剤)
60	60-00-4	エチレンジアミン四酢酸	加工剤(染色助剤、繊維処理助剤、金属表面処理剤)、安定剤(塩化ビニル樹脂用)、重合開始剤(合成ゴム)、食品添加剤、化粧品添加剤
61	12427-38-2	N,N'-エチレンビス(ジチオカルバミン酸)マンガン(別名マンネブ)	農薬(殺菌剤)
62	8018-01-7	N,N'-エチレンビス(ジチオカルバミン酸)マンガンとN,N'-エチレンビス(ジチオカルバミン酸)亜鉛の錯化合物(別名マンコゼブ又はマンゼブ)	農薬(殺菌剤)
63	85-00-7	1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジプロミド(別名ジクアトジプロミド又はジクワット)	農薬(除草剤)
64	80844-07-1	2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンジルエーテル(別 名エトフェンブロックス)	農薬(殺虫剤)
65	106-89-8	エピクロロヒドリン	合成樹脂原料(エポキシ樹脂)、合成原料(グリセリン、界面活性剤、イオン交換樹脂、医薬品)、加工剤(繊維処理)、可塑剤、農薬(殺虫・殺菌剤)
66	106-88-7	1,2-エポキシブタン	安定剤(塩素系溶剤用)、合成原料(溶剤、医薬品、農薬、界面活性剤)
67	556-52-5	2,3-エポキシ-1-プロパノール	安定剤(樹脂、農薬)、加工剤(繊維改質)、エポキシ樹脂アルキド樹脂の反応性希釈剤
68	75-56-9	1,2-エポキシプロパン(別名酸化プロピレン)	合成原料(プロピレングリコール、プロピレンカーボネート、ウレタン樹脂、界面活性剤、医薬品、農薬)
69	122-60-1	2,3-エポキシプロピル=フェニルエーテル	安定剤(合成樹脂、農薬)、加工剤(繊維改質)、エポキシ樹脂・アルキド樹脂の反応性希釈剤
70	155569-91-8	エマメクチン安息香酸塩(別名エマメクチン B1a 安息香酸塩及びエマメクチン B1b 安息香酸塩の混合物)	農薬(殺虫剤)
71	7705-08-0	塩化第二鉄	金属板腐食液、汚水浄化沈殿剤、写真製版、触媒
72	85535-84-8	塩化パラフィン(炭素数が10から13まで のもの及びその混合物に限る。)	難燃剤、可塑剤(ビニル樹脂用)、潤滑油(極圧潤滑油)
73	111-87-5	1-オクタノール	溶剤(香料、化粧品、有機合成反応)、合成原料(可塑剤、安定剤、界面活性剤、合成樹脂)
74	1806-26-4	パラ-オクチルフェノール	合成原料(界面活性剤)、合成樹脂原料(フェノール樹脂)
75	-	カドミウム及びその化合物	顔料、電池、合金
76	105-60-2	イプシロン-カプロラクタム	合成樹脂原料(衣料用繊維、タイヤコード、各種成型加工部品、食品包装用フィルム)
77	156-62-7	カルシウムシアナミド	肥料、合成原料(メラミン、チオ尿素など)
78	105-67-9	2,4-キシレノール	殺虫剤、抗酸化剤、合成原料(医薬品、顔料)、合成樹脂原料
79	576-26-1	2,6-キシレノール	合成樹脂原料(エンジニアリングプラスチック)、合成原料(防かび剤、抗酸化剤)
80	1330-20-7	キシレン	合成原料(テレフタル酸、染料、有機顔料、香料、可塑剤、医薬品)、ガンリン・灯油成分、溶剤(塗料、農薬)
81	91-22-5	キノリン	農薬、医薬、界面活性剤、防錆剤(清浄剤用)
82	-	銀及びその水溶性化合物	写真材料、電池、電気接点、銀ロウ
83	98-82-8	クメン	合成原料(フェノール、アセトン、酸化剤)、ガンリン添加剤
84	107-22-2	グリオキサール	加工剤(繊維処理、土壌硬化、紙仕上げ)、合成原料(香料、医薬品)
85	111-30-8	グルタルアルデヒド	架橋剤、試薬、殺ウイルス剤
86	1319-77-3	クレゾール	合成樹脂原料(半導体封止材料、ワニス)、合成原料(染料、農薬、可塑剤)、消毒剤

第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
87	-	クロム及び3価クロム化合物	ステンレス鋼、メッキ、スーパーアロイ(超硬合金)、顔料、皮なめし剤
88	-	6価クロム化合物	メッキ、顔料、触媒、金属表面処理剤
89	95-51-2 106-47-8 108-42-9	クロロアニリン	合成原料(医薬・農業中間体)、架橋剤(樹脂用)
90	1912-24-9	2-クロロ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-1,3,5-トリアジン(別名アトラジン)	農業(除草剤)
91	21725-46-2	2-(4-クロロ-6-エチルアミノ-1,3,5-トリアジン-2-イル)アミノ-2-メチルプロピオニトリル(別名シアナジン)	農業(除草剤)
92	129558-76-5	4-クロロ-3-エチル-1-メチル-N-[4-(パラトリロキシ)ベンジル]ピラゾール-5-カルボキサミド(別名トルフェンピラド)	農業(殺虫剤)
93	51218-45-2	2-クロロ-2'-エチル-N-(2-メトキシ-1-メチルエチル)-6'-メチルアセトアニリド(別名メトラクロール)	農業(除草剤)
94	75-01-4	クロロエチレン(別名塩化ビニル)	合成樹脂原料(ポリ塩化ビニル樹脂、塩化ビニル-酢酸ビニル共重合樹脂、塩化ビニル-塩化ビニリデン共重合樹脂)
95	79622-59-6	3-クロロ-N-(3-クロロ-5-トリフルオロメチル-2-ピリジル)-アルファ,アルファ,アルファトリフルオロ-2,6-ジニトロ-パラトルイジン(別名フルアジナム)	農業(殺菌剤)
96	119446-68-3	1-[[2-[2-クロロ-4-(4-クロロフェノキシ)フェニル]-4-メチル-1,3-ジオキサラン-2-イル]メチル]-1H-1,2,4-トリアゾール(別名ジフェノコナゾール)	農業(殺虫剤)
97	611-19-8	1-クロロ-2-(クロロメチル)ベンゼン	合成原料(染料・顔料、医薬・農業中間体)
98	79-11-8	クロロ酢酸	合成原料(マロン酸、アミノ酸、香料、医薬品、除草剤、可塑剤)
99	105-39-5	クロロ酢酸エチル	合成原料(医薬、香料、農業、接着剤、界面活性剤)
100	51218-49-6	2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド(別名プレチラクロール)	農業(除草剤)
101	15972-60-8	2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(メトキシメチル)アセトアニリド(別名アラクロール)	農業(除草剤)
102	97-00-7	1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン	合成原料(染料)
103	75-68-3	1-クロロ-1,1-ジフルオロエタン(別名HCFC-142b)	フルオロカーボン(冷媒、発泡剤、噴射剤)
104	75-45-6	クロロジフルオロメタン(別名HCFC-22)	フルオロカーボン(冷媒、発泡剤、噴射剤)
105	2837-89-0	2-クロロ-1,1,1,2-テトラフルオロエタン(別名HCFC-124)	フルオロカーボン(冷媒)
106	-	クロロトリフルオロエタン(別名HCFC-133)	フルオロカーボン(冷媒、合成原料)
107	75-72-9	クロロトリフルオロメタン(別名CFC-13)	フルオロカーボン(冷媒、エッチング剤、合成原料)
108	7085-19-0 93-65-2	(RS)-2-(4-クロロ-オルト-トリロキシ)プロピオン酸(別名メコプロップ)	農業(除草剤)
109	95-49-8	オルト-クロロトルエン	合成原料(染料、農業、医薬品)
110	106-43-4	パラ-クロロトルエン	合成原料(染料、農業、医薬品)
111	121-87-9	2-クロロ-4-ニトロアニリン	合成原料(染料、顔料中間体)
112	88-73-3	2-クロロニトロベンゼン	合成原料(染料)
113	122-34-9	2-クロロ-4,6-ビス(エチルアミノ)-1,3,5-トリアジン(別名シマジン又はCAT)	農業(除草剤)
114	133220-30-1	(RS)-2-[2-(3-クロロフェニル)-2,3-エポキシプロピル]-1-2-エチルインダン-1,3-ジオン(別名インダノファン)	農業(除草剤)
115	158237-07-1	4-(2-クロロフェニル)-N-シクロヘキシル-N-エチル-4,5-ジヒドロ-5-オキソ-1H-テトラゾール-1-カルボキサミド(別名フェントラザミド)	農業(除草剤)

## 第一種指定化学物質リスト

平成22年度から排出量・移動量を把握、平成23年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
116	78587-05-0	(4RS,5RS)-5-(4-クロロフェニル)-N-シクロヘキシル-4-メチル-2-オキソ-1,3-チアゾリジン-3-カルボキサミド(別名ヘキシチアゾクス)	農薬(殺虫剤)
117	107534-96-3	(RS)-1-パラクロロフェニル-4,4-ジメチル-3-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イルメチル)ペンタン-3-オール(別名テブコナゾール)	農薬(殺菌剤)
118	88671-89-0	2-(4-クロロフェニル)-2-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イルメチル)ヘキサニトリル(別名マイクロプタニル)	農薬(殺菌剤)
119	114369-43-6	(RS)-4-(4-クロロフェニル)-2-フェニル-2-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イルメチル)ブチロニトリル(別名フェンブコナゾール)	農薬(殺菌剤)
120	95-57-8	オルトクロロフェノール	合成原料(染料、農薬)
121	106-48-9	パラクロロフェノール	合成原料(染料、殺菌剤、化粧品)
122	598-78-7	2-クロロプロピオン酸	合成原料、合成樹脂原料、農薬(殺菌剤)
123	107-05-1	3-クロロプロペン(別名塩化アリル)	合成原料(アリル誘導体化合物、香料、農薬、医薬品)
124	99485-76-4	1-(2-クロロベンジル)-3-(1-メチル-1-フェニルエチル)ウレア(別名クミルロン)	農薬(除草剤)
125	108-90-7	クロロベンゼン	合成原料(染料、香料、医薬品、農薬)
126	76-15-3	クロロペンタフルオロエタン(別名CFC-115)	フルオロカーボン(冷媒)
127	67-66-3	クロロホルム	合成原料(代替フロン、フッ素樹脂)、医薬品(麻酔剤、消毒剤、血液防腐剤)、溶剤(ゴム・メチルセルロース用)
128	74-87-3	クロロメタン(別名塩化メチル)	合成原料(シリコン樹脂、ブチルゴム)、溶剤(医薬品製造用、農薬製造用)、発泡剤(発泡ポリスチレン用)
129	59-50-7	4-クロロ-3-メチルフェノール	合成原料(染料・香料中間体)
130	94-74-6	(4-クロロ-2-メチルフェノキシ)酢酸(別名MCP又はMCPA)	農薬(除草剤)
131	563-47-3	3-クロロ-2-メチル-1-プロペン	合成原料、合成樹脂原料、農薬、試薬、合成樹脂添加剤
132	-	コバルト及びその化合物	特殊鋼、磁性材料、触媒
133	111-15-9	酢酸2-エトキシエチル(別名エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート)	溶剤(塗料、インキ)
134	108-05-4	酢酸ビニル	合成樹脂原料(ポリ酢酸ビニル、酢酸ビニル共重合樹脂、ポリビニルアルコール)
135	110-49-6	酢酸2-メトキシエチル(別名エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート)	溶剤(塗料、接着剤)
136	90-02-8	サリチルアルデヒド	試薬(Cu、Ni等の検出用)
137	420-04-2	シアナミド	合成原料、肥料、医薬品
138	139920-32-4	(RS)-2-シアノ-N-[(R)-1-(2,4-ジクロロフェニル)エチル]-3,3-ジメチルブチラミド(別名ジクロシメット)	農薬(殺菌剤)
139	66841-25-6	(S)-アルファシアノ-3-フェノキシベンジル=(1R,3S)-2,2-ジメチル-3-(1,2,2,2-テトラブロモエチル)シクロプロパンカルボキシラート(別名トラロメトリン)	農薬(殺虫剤)、合成原料(医薬品)
140	39515-41-8	(RS)-アルファシアノ-3-フェノキシベンジル=2,2,3,3-テトラメチルシクロプロパンカルボキシラート(別名フェンプロバトリン)	農薬(殺虫剤)
141	57966-95-7	トランス-1-(2-シアノ-2-メトキシエチル)-3-エチルウレア(別名シモキサニル)	農薬(殺菌剤)
142	615-05-4	2,4-ジアミノアニソール	合成原料(染料)、染料
143	101-80-4	4,4'-ジアミノジフェニルエーテル	合成原料、合成樹脂原料、架橋剤
144	-	無機シアン化合物(錯塩及びシアン酸塩を除く。)	メッキ助剤、写真材料
145	100-37-8	2-(ジエチルアミノ)エタノール	医薬品原料(抗ヒスタミン剤、抗マラリア剤、鎮痛剤)、防錆剤、合成原料(凝集剤)、溶剤(印刷インキ・アゾ染料の緩性揮発剤)



第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
146	29232-93-7	O-2-ジエチルアミノ-6-メチルピリミジン-4-イル=O,0-ジメチル=ホス ホロ チオアート(別名ピリミホスメチル)	農薬(殺虫剤)
147	28249-77-6	N,N-ジエチルチオカルバミン酸S-4-クロロベンジル(別名チオベンカルブ又はベンチオカーブ)	農薬(除草剤)
148	125306-83-4	N,N-ジエチル-3-(2,4,6-トリメチルフェニルスルホニル)-1H-1,2,4-トリアゾール-1-カルボキサミド(別名カフェンストール)	農薬(除草剤)
149	56-23-5	四塩化炭素	合成原料(ホスゲン、農薬(殺虫剤))、溶剤
150	123-91-1	1,4-ジオキサン	溶剤(合成皮革、塗料、合成反応用)、分散剤
151	646-06-0	1,3-ジオキソラン	セルロース誘導体、溶剤、安定剤(塩素系溶剤用)、電解質溶媒、エンジニアリングプラスチック
152	15263-53-3	1,3-ジカルバモイルチオ-2-(N,N-ジメチルアミノ)-プロパン(別名カルタップ)	農薬(殺虫剤)
153	7696-12-0	シクロヘキサ-1-エン-1,2-ジカルボキシシメドメチル=(1RS)-シス-トランス-2,2-ジメチル-3-(2-メチルプロパ-1-エニル)シクロプロパンカルボキシラート(別名テトラメトリン)	農薬(殺虫剤)、合成原料(医薬品、化粧品)
154	108-91-8	シクロヘキシルアミン	防錆剤、ゴム用薬品、清浄剤、染色助剤、酸素吸収剤、不凍液
155	17796-82-6	N-(シクロヘキシルチオ)フタルイミド	スコーチ防止剤(ゴム薬品)
156	27134-27-6	ジクロロアニリン	合成原料(染料、顔料、農薬)
157	107-06-2	1,2-ジクロロエタン	合成原料(塩化ビニル原料、エチレンジアミン、医薬品、農薬(殺虫剤))、合成樹脂原料(ポリアミノ酸樹脂)、洗浄剤(フィルム用)、溶剤、くん蒸剤
158	75-35-4	1,1-ジクロロエチレン(別名塩化ビニリデン)	合成樹脂原料(ポリ塩化ビニリデン(食品包装用フィルム))
159	156-59-2	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン製造の副生成物
160	101-14-4	3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	硬化剤(ウレタン樹脂:エポキシ樹脂:エポキシウレタン樹脂用)
161	75-71-8	ジクロロジフルオロメタン(別名CFC-12)	フルオロカーボン(冷媒、噴射剤、発泡剤)
162	23950-58-5	3,5-ジクロロ-N-(1,1-ジメチル-2-プロピニル)ベンズアミド(別名プロビザミド)	農薬(除草剤)
163	-	ジクロロテトラフルオロエタン(別名CFC-114)	フルオロカーボン(噴射剤、発泡剤、合成原料)
164	306-83-2	2,2-ジクロロ-1,1,1-トリフルオロエタン(別名HCFC-123)	フルオロカーボン(冷媒、洗浄剤、発泡剤)
165	95-73-8	2,4-ジクロロトルエン	合成原料(農薬:医薬用中間体)
166	99-54-7	1,2-ジクロロ-4-ニトロベンゼン	合成原料(医薬、農薬、染料、顔料中間体)
167	89-61-2	1,4-ジクロロ-2-ニトロベンゼン	合成原料(染料、有機顔料)
168	36734-19-7	3-(3,5-ジクロロフェニル)-N-イソプロピル-2,4-ジオキソイミダゾリジン-1-カルボキサミド(別名イプロジオン)	農薬(殺菌剤)
169	330-54-1	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素(別名ジウロン又はDCMU)	農薬(除草剤)
170	112281-77-3	(RS)-2-(2,4-ジクロロフェニル)-3-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル)プロピル=1,1,2,2-テトラフルオロエチル=エーテル(別名テトラコナゾール)	農薬(殺菌剤)
171	60207-90-1	(2RS,4RS)-1-[2-(2,4-ジクロロフェニル)-4-プロピル-1,3-ジオキソラン-2-イルメチル]-1H-1,2,4-トリアゾール及び(2RS,4SR)-1-[2-(2,4-ジクロロフェニル)-4-プロピル-1,3-ジオキソラン-2-イルメチル]-1H-1,2,4-トリアゾールの混合物(別名プロピコナゾール)	農薬(殺菌剤)
172	153197-14-9	3-[1-(3,5-ジクロロフェニル)-1-メチルエチル]-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジン-4-オン(別名オキサジクロメホン)	農薬(除草剤)

## 第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
173	50471-44-8	(RS)-3-(3,5-ジクロロフェニル)-5-メチル-5-ビニル-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン(別名ピンクロゾリン)	農業(抗菌剤)
174	330-55-2	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチル尿素(別名リニユロン)	農業(除草剤)
175	94-75-7	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸(別名2,4-D又は2,4-PA)	農業(除草剤)
176	1717-00-6	1,1-ジクロロ-1-フルオロエタン(別名HCFC-141b)	フルオロカーボン(洗浄剤、発泡剤)
177	75-43-4	ジクロロフルオロメタン(別名HCFC-21)	フルオロカーボン(合成原料、冷媒)
178	78-87-5	1,2-ジクロロプロパン	農業(殺虫剤)、溶剤(合成樹脂用)、くん蒸剤
179	542-75-6	1,3-ジクロロプロパン(別名D-D)	農業(殺虫剤)
180	91-94-1	3,3'-ジクロロベンジジン	合成原料(顔料)
181	95-50-1 106-46-7	ジクロロベンゼン	合成原料(染料、顔料、農業、医薬品)、溶剤、洗浄剤(グリース用)、その他(消毒剤、伝導熱媒体)
182	71561-11-0	2-[4-(2,4-ジクロロベンゾイル)-1,3-ジメチル-5-ピラゾリルオキシ]アセトフェノン(別名ピラゾキシフェン)	農業(除草剤)
183	58011-68-0	4-(2,4-ジクロロベンゾイル)-1,3-ジメチル-5-ピラゾリル=4-トルエンスルホナート(別名ピラゾレート)	農業(除草剤)
184	1194-65-6	2,6-ジクロロベンゾニトリル(別名ジクロベニル又はDBN)	農業(除草剤)
185	-	ジクロロペンタフルオロプロパン(別名HCFC-225)	フルオロカーボン(洗浄剤)
186	75-09-2	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)	洗浄剤(金属脱脂)、溶剤(重合用)、エアゾール噴射剤、インキ成分、ペイント剥離剤
187	3347-22-6	2,3-ジシアノ-1,4-ジチアアントラキノン(別名ジチアノン)	農業(殺菌剤)
188	101-83-7	N,N-ジシクロヘキシルアミン	合成原料(防錆剤、ゴム薬品、界面活性剤、染料)
189	4979-32-2	N,N-ジシクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	加硫促進剤(ゴム用)
190	77-73-6	ジシクロペンタジエン	合成樹脂原料(不飽和ポリエステル樹脂)
191	50512-35-1	1,3-ジチオラン-2-イリデンマロン酸ジイソプロピル(別名イソプロチオラン)	農業(殺菌剤)
192	17109-49-8	ジチオリン酸O-エチル-S,S-ジフェニル(別名エディフェンホス又はEDDP)	農業(殺菌剤)
193	298-04-4	ジチオリン酸O,O-ジエチル-S-(2-エチルチオエチル)(別名エチルチオメトン又はジスルホトン)	農業(殺虫剤)
194	2310-17-0	ジチオリン酸O,O-ジエチル-S-[(6-クロロ-2,3-ジヒドロ-2-オキソベンゾオキサゾリニル)メチル](別名ホサロン)	農業(殺虫剤)
195	34643-46-4	ジチオリン酸O-2,4-ジクロロフェニル-O-エチル-S-プロピル(別名プロチオホス)	農業(殺虫剤)
196	950-37-8	ジチオリン酸S-(2,3-ジヒドロ-5-メトキシ-2-オキソ-1,3,4-チアジアゾール-3-イル)メチル-O,O-ジメチル(別名メチダチオン又はDMTP)	農業(殺虫剤)
197	121-75-5	ジチオリン酸O,O-ジメチル-S-1,2-ビス(エトキシカルボニル)エチル(別名マラソン又はマラチオン)	農業(殺虫剤)
198	60-51-5	ジチオリン酸O,O-ジメチル-S-[(N-メチルカルバモイル)メチル](別名ジメトエート)	農業(殺虫剤)
199	16090-02-1	ジナトリウム=2,2'-ビニレンビス[5-(4-モルホリノ-6-アニリノ-1,3,5-トリアジン-2-イルアミノ)ベンゼンスルホナート](別名Clフルオレスセント260)	洗浄剤、ワックス、可塑剤、蛍光増白剤
200	25321-14-6	ジニトロトルエン	合成原料(2,4-トルエンジアミン、染料、火薬)
201	51-28-5	2,4-ジニトロフェノール	合成原料(黒色硫化染料)、試薬、防腐剤
202	1321-74-0	ジビニルベンゼン	架橋剤(不飽和ポリエステル樹脂、スチレン系樹脂)

第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
203	122-39-4	ジフェニルアミン	合成原料(染料、医薬品)、安定剤(火薬・塩素系溶剤用)、有機ゴム薬品
204	101-84-8	ジフェニルエーテル	香料(石けん用)、熱媒体
205	102-06-7	1,3-ジフェニルグアニジン	加硫促進剤(ゴム用)
206	55285-14-8	N-ジブチルアミノチオ-N-メチルカルバミン酸2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-7-ベンゾ[b]フラニル(別名カルボスルファン)	農薬(殺虫剤)
207	128-37-0	2,6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール(別名BHT)	酸化防止剤(樹脂、食品)、老化防止剤(ゴム用)
208	96-76-4	2,4-ジ-ターシャリーブチルフェノール	合成原料(酸化防止剤、紫外線吸収剤)
209	124-48-1	ジプロモクロロメタン	非意図的生成物
210	10222-01-2	2,2-ジプロモ-2-シアノアセトアミド(別名DBNPA)	殺菌剤、防腐剤、防かび剤、防藻剤
211	-	ジプロモテトラフルオロエタン(別名ハロン-2402)	ハロン(消火剤)
212	30560-19-1	(RS)-O,S-ジメチル=アセチルホスホル アミドチオアート(別名アセフェート)	農薬(殺虫剤)
213	127-19-5	N,N-ジメチルアセトアミド	反応溶媒、溶剤、塗料はく離剤
214	95-68-1	2,4-ジメチルアニリン	合成原料(染料、顔料)
215	87-62-7	2,6-ジメチルアニリン	合成原料(染料、顔料)
216	121-69-7	N,N-ジメチルアニリン	合成原料(染料、医薬品、感圧色素、火薬、農薬)、溶剤、加硫促進剤(有機ゴム)、硬化剤(エポキシ樹脂、ポリエステル樹脂)
217	31895-21-3	5-ジメチルアミノ-1,2,3-トリチアン(別名チオシクラム)	農薬(殺虫剤)
218	124-40-3	ジメチルアミン	合成原料(加硫促進剤、殺虫・殺菌剤、医薬品、界面活性剤、溶剤)
219	624-92-0	ジメチルジスルフィド	香料、合成原料、硫化剤
220	-	ジメチルジチオカルバミン酸の水溶性塩	キレート剤、合成原料(除草剤)、加硫促進剤(ゴム用)、表面処理剤(クロメート処理剤)、凝集剤、腐食防止剤
221	82560-54-1	2,2-ジメチル-2,3-ジヒドロ-1-ベンゾフラン-7-イル=N-[N-(2-エトキシカルボニルエチル)-N-イソプロピルシルフェノモイル]-N-メチルカルバマート(別名ベンフラカルブ)	農薬(殺菌剤、殺虫剤)
222	62850-32-2	N,N-ジメチルチオカルバミン酸S-4-フェノキシブチル(別名フェノチオカルブ)	農薬(殺虫剤)
223	112-18-5	N,N-ジメチルドデシルアミン	合成原料(界面活性剤、消毒剤、樹脂処理剤)
224	1643-20-5	N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド	洗浄剤(シャンプー、台所用洗剤)
225	52-68-6	ジメチル=2,2,2-トリクロロ-1-ヒドロキシエチルホスホナート(別名トリクロロホン又はDEP)	農薬(殺虫剤)
226	57-14-7	1,1-ジメチルヒドラジン	安定剤(合成繊維・合成樹脂)、合成原料(医薬、農薬、界面活性剤)、ロケット推進薬
227	1910-42-5	1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジニウム=ジクロリド(別名パラコート又はパラコートジクロリド)	農薬(除草剤)
228	91-97-4	3,3'-ジメチルビフェニル-4,4'-ジイル=ジイソシアネート	合成樹脂原料(ウレタン、パンキング剤、ウレアグリース)、樹脂改質剤、耐熱染料
229	23564-05-8	ジメチル=4,4'-(オルトフェニレン)ビス(3-チオアロファナート)(別名チオファネートメチル)	農薬(殺菌剤)
230	793-24-8	N-(1,3-ジメチルブチル)-N'-フェニル-パラフェニレンジアミン	老化防止剤(ゴム薬品)
231	119-93-7	3,3'-ジメチルベンジジン(別名オルトトリジン)	合成原料(染料(ナフトールAS-G、トルイレンオレンジR、ベンゾブルー-3B等))
232	68-12-2	N,N-ジメチルホルムアミド	溶剤(合成繊維、合成皮革、医薬品、色素用)、試薬(ホルミル化剤)、ガス吸収剤
233	2597-03-7	2-[(ジメトキシホスフィノチオイル)チオ]-2-フェニル酢酸エチル(別名フェントエート又はPAP)	農薬(殺虫剤)
234	7726-95-6	臭素	合成原料(農薬、難燃剤)

## 第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
235	-	臭素酸の水溶性塩	食品添加物、パーマ用薬剤、試薬
236	3861-47-0	3,5-ジヨード-4-オクタノイルオキシベンゾニトリル (別名アイオキシニル)	農薬(除草剤)
237	-	水銀及びその化合物	蛍光灯、温度計、アマルガム、触媒
238	61788-32-7	水素化テルフェニル	熱媒体
239	-	有機スズ化合物	殺菌剤
240	100-42-5	スチレン	合成樹脂原料(ポリスチレン樹脂、合成ゴム、AS樹脂、ABS樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、イオン交換樹脂)
241	4016-24-4	2-スルホヘキサデカン酸-1-メチルエ ステルナトリウム塩	界面活性剤(工業用洗浄剤、ワックス、試薬)
242	-	セレン及びその化合物	ガラス着色剤、整流器、光電セル
243	-	ダイオキシン類	非意図的生成物
244	533-74-4	2-チオキソ-3,5-ジメチルテトラヒドロ-2H-1,3,5-チアジアジン(別名ダソメット)	農薬(土壌殺菌剤、除草剤)
245	62-56-6	チオ尿素	医薬品原料(チオウラシル、メチオニン等)、農薬(発芽ホルモン)、加工剤(繊維・紙・樹脂用)
246	108-98-5	チオフェノール	合成原料(医薬品、農薬)、安定剤(重合・酸化防止剤)、ゴム用素練り促進剤
247	77458-01-6	チオリン酸O-1-(4-クロロフェニル)-4-ピラゾリル-0-エチル-S-プロピル(別名ピラクロホス)	農薬(殺虫剤)
248	333-41-5	チオリン酸O,0-ジエチル-0-(2-イソプロピル-6-メチル-4-ピリミジニル)(別名ダイアジノン)	農薬(殺虫剤)
249	2921-88-2	チオリン酸O,0-ジエチル-0-(3,5,6-トリクロロ-2-ピリジニル)(別名クロルピリホス)	農薬(殺虫剤)
250	18854-01-8	チオリン酸O,0-ジエチル-0-(5-フェニル-3-イソキサゾリル)(別名イソキサチオン)	農薬(殺虫剤)
251	122-14-5	チオリン酸O,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)(別名フェントロチオン又はMEP)	農薬(殺虫剤)
252	55-38-9	チオリン酸O,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-メチルチオフェニル)(別名フェンチオン又はMPP)	農薬(殺虫剤)
253	41198-08-7	チオリン酸O-4-プロモ-2-クロロフェニル-0-エチル-S-プロピル(別名プロフェノホス)	農薬(殺虫剤)
254	26087-47-8	チオリン酸S-ベンジル-0,0-ジイソプロピル(別名イプロベンホス又はBP)	農薬(殺菌剤)
255	1163-19-5	デカブロモジフェニルエーテル	難燃剤(ポリエチレン・ABS樹脂・ポリスチレン・ポリエステル樹脂用)
256	334-48-5	デカン酸	合成原料
257	112-30-1 25339-17-7	デシラルコール(別名デカノール)	農薬(除草剤)、可塑性(塩化ビニル樹脂)、潤滑剤、合成原料(界面活性剤、香料)
258	100-97-0	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3.3.1.1(3,7)]デカン(別名ヘキサメチレンテトラミン)	硬化剤(熱硬化性樹脂)、加硫促進剤、その他(発泡剤、ホスゲンの吸収剤)
259	97-77-8	テトラエチルチウラムジスルフィド(別名ジスルフィラム)	農薬(殺菌剤)、合成原料(ゴム薬品、医薬品)
260	1897-45-6	テトラクロロイソフタロニトリル(別名クロロタロニル又はTPN)	農薬(殺菌剤)
261	27355-22-2	4,5,6,7-テトラクロロイソベンゾフラン-1(3H)-オン(別名フサライド)	農薬(殺菌剤)
262	127-18-4	テトラクロロエチレン	溶剤(ドライクリーニング、医薬品、香料、塗料)、洗浄剤(原毛用)、合成原料(代替フロン)
263	-	テトラクロロジフルオロエタン(別名CFC-112)	フルオロカーボン(冷媒、洗浄剤、合成原料)
264	118-75-2	2,3,5,6-テトラクロロ-パラベンゾキノン	合成原料(染料、顔料、医薬品、ゴム薬品)
265	11070-44-3	テトラヒドロメチル無水フタル酸	合成樹脂原料(不飽和ポリエステル樹脂、アルキッド樹脂)、エポキシ樹脂用硬化剤
266	79538-32-2	2,3,5,6-テトラフルオロ-4-メチルベンジル=(Z)-3-(2-クロロ-3,3,3-トリフルオロ-1-プロペニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート(別名テフルトリン)	農薬(殺虫剤)

第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
267	59669-26-0	3,7,9,13-テトラメチル-5,11-ジオキサ-2,8,14-トリチア-4,7,9,12-テトラアザペンタデカ-3,12-ジエン-6,10-ジオン(別名チオジカルブ)	農業(殺虫剤)
268	137-26-8	テトラメチルチウラムジスルフィド(別名チウラム又はチラム)	農業(殺虫剤)、加硫促進剤(チウラム系)
269	505-32-8	3,7,11,15-テトラメチルヘキサデカ-1-エン-3-オール(別名イソフィトール)	合成原料、合成樹脂原料、着香剤、消臭剤
270	100-21-0	テレフタル酸	合成樹脂原料(ポリエステル系繊維・樹脂)
271	120-61-6	テレフタル酸ジメチル	合成樹脂原料(ポリエステル系繊維・樹脂)
272	-	銅水溶性塩(錯塩を除く。)	メッキ、電池、顔料、触媒、皮なめし、農業、殺菌剤
273	112-53-8	1-ドデカノール(別名ノルマルドデシルアルコール)	合成原料
274	25103-58-6	ターシャリドデカンチオール	重合調整剤、合成原料(界面活性剤、有機合成)、殺菌剤、防錆剤、潤滑油添加剤
275	151-21-3	ドデシル硫酸ナトリウム	界面活性剤(洗浄剤、乳化剤、合成洗剤基剤)
276	112-57-2	3,6,9-トリアザウンデカン-1,11-ジアミン(別名テトラエチレンペンタミン)	硬化剤(エポキシ樹脂)、紙力増強剤、キレート剤、潤滑油添加剤、アスファルト添加剤、界面活性剤
277	121-44-8	トリエチルアミン	合成原料(医薬品、染料、ゴム薬品、界面活性剤、硬化剤)
278	112-24-3	トリエチレントラミン	合成原料(潤滑強化剤、潤滑油添加剤、キレート剤、界面活性剤)
279	71-55-6	1,1,1-トリクロロエタン	合成原料(代替フロン用)、試薬、溶剤、洗浄剤
280	79-00-5	1,1,2-トリクロロエタン	洗浄剤
281	79-01-6	トリクロロエチレン	溶剤(染料、生ゴム、硫黄、ピッチ、塗料)、洗浄剤(脱脂、原毛用)、合成原料(代替フロン)、農業(殺虫剤)
282	76-03-9	トリクロロ酢酸	合成原料(医薬品)、腐食剤、角質溶解剤、塗料はく離剤
283	108-77-0	2,4,6-トリクロロ-1,3,5-トリアジン	合成原料(アゾ染料、アンスラキノン染料、蛍光染料、合成樹脂、農業)、加硫促進剤
284	-	トリクロロトリフルオロエタン(別名CFC-113)	フルオロカーボン(洗浄剤、合成原料)
285	76-06-2	トリクロロニトロメタン(別名クロロピクリン)	農業(殺虫剤)
286	55335-06-3	(3,5,6-トリクロロ-2-ピリジル)オキシ酢酸(別名トリクロピル)	農業(除草剤)
287	88-06-2	2,4,6-トリクロロフェノール	合成原料(塗料、殺菌剤)、木材防腐剤
288	75-69-4	トリクロロフルオロメタン(別名CFC-11)	溶剤、合成原料(フッ素樹脂、医薬品)、フッ素系冷媒、血液防腐剤
289	96-18-4	1,2,3-トリクロロプロパン	合成原料(農業)、架橋剤(合成樹脂用)
290	12002-48-1	トリクロロベンゼン	合成原料(染料、顔料)、反応溶剤、潤滑剤
291	2451-62-9	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)-1,3,5-トリアジン-2,4,6(1H,3H,5H)-トリオン	硬化剤(ポリエステル系)、エポキシ樹脂改質剤、安定剤(難燃プラスチック)、その他(エポキシ系樹脂の主剤)
292	102-82-9	トリブチルアミン	合成原料(界面活性剤、ゴム薬品、染料、医薬品、農業)、触媒、高分子化合物改質剤
293	1582-09-8	アルファ,アルファ,アルファトリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピルパラトルイジン(別名トリフルラリン)	農業(除草剤)
294	118-79-6	2,4,6-トリブromoフェノール	難燃剤(プラスチック、繊維)
295	3452-97-9	3,5,5-トリメチル-1-ヘキサノール	合成原料(可塑剤、香料、溶剤、界面活性剤)
296	95-63-6	1,2,4-トリメチルベンゼン	溶剤、合成原料(染料、顔料、医薬品、工業薬品)
297	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	合成原料(染料、紫外線安定剤、医薬品)、ガソリン成分、溶剤
298	26471-62-5	トリレンジイソシアネート	合成樹脂原料(ポリウレタン樹脂)
299	95-53-4 106-49-0	トルイジン	合成原料(エポキシ樹脂硬化剤、染料等)、溶剤
300	108-88-3	トルエン	合成原料(合成繊維、染料、火薬(TNT)、香料、有機顔料、可塑剤、ガソリン成分、溶剤(塗料、インキ))
301	25376-45-8	トルエンジアミン	合成樹脂原料(ポリウレタン樹脂)、合成原料(染料)
302	91-20-3	ナフタレン	合成原料(染料、顔料、爆薬、滅菌剤、燃料)、合成樹脂原料

## 第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
303	3173-72-6	1,5-ナフタレンジイル=ジイソシアネート	合成樹脂原料(塗料、接着剤、ウレタン)
304	7439-92-1	鉛	バッテリー
305	-	鉛化合物	バッテリー、光学ガラス、顔料、塩化ビニル樹脂安定剤
306	13048-33-4	二アクリル酸ヘキサメチレン(別名HDDA)	架橋剤(合成ゴム、プラスチック)
307	7699-43-6	二塩化酸化ジルコニウム	合成原料(ジルコニル石鹼、顔料、触媒、凝集剤、ジルコニウム化合物)
308	7440-02-0	ニッケル	メッキ、磁性材料、ステンレス鋼、ニッケル鋼
309	-	ニッケル化合物	顔料、メッキ、電池
310	139-13-9	ニトリロ三酢酸	キレート化剤
311	91-23-6	オルト-ニトロアニソール	合成原料(染料、医薬品中間体、ジアニジジン)
312	88-74-4	オルト-ニトロアニリン	合成原料(紫外線吸収剤、医薬品、染料、顔料)
313	55-63-0	ニトログリセリン	ダイナマイトの基材、無煙火薬の主剤、医薬品
314	100-00-5	パラ-ニトロクロロベンゼン	合成原料(アゾ染料、硫化染料、p-アミノフェノール、p-アニジジン)
315	88-72-2	オルト-ニトロトルエン	合成原料(染料)
316	98-95-3	ニトロベンゼン	合成原料(アニリン、ベンジジン、キノリン、アゾベンゼン(染料、香料中間体))、溶剤(硝酸セルロース)、塵埃防止剤、酸化剤
317	75-52-5	ニトロメタン	合成原料(界面活性剤、爆薬、医薬品、殺虫剤、殺菌剤)、溶剤、助燃剤
318	75-15-0	二硫化炭素	溶剤(ビスコース人絹、セロハン)、合成原料(農業、医薬品)、加硫促進剤、その他(浮遊選鉱剤、ゴム製造用添加剤)
319	143-08-8	1-ノナンオール(別名ノルマル-ノニルアル コール)	合成原料(可塑剤、香料、界面活性剤)
320	25154-52-3	ノニルフェノール	合成原料(界面活性剤)、安定剤(エチルセルロース)、加硫促進剤、ゴム助剤
321	-	バナジウム化合物	触媒、特殊鋼、合成原料(バナジウム化合物)
322	3618-72-2	5'-[N,N'-ビス(2-アセチルオキシエチル)アミノ]-2'-(2-ブromo-4,6-ジニトロフェニルアゾ)-4'-メトキシアセトアニリド	染料
323	1014-70-6	2,4-ビス(エチルアミノ)-6-メチルチオ-1,3,5-トリアジン(別名シメトリン)	農薬(除草剤)
324	101-90-6	1,3-ビス[(2,3-エポキシプロピル)オキシ]ベンゼン	希釈剤
325	10380-28-6	ビス(8-キノリノラト)銅(別名オキシ銅又は有機銅)	農薬(殺菌剤)
326	74115-24-5	3,6-ビス(2-クロロフェニル)-1,2,4,5-テトラジン(別名クロフェンチジン)	農薬(殺虫剤)
327	782-74-1	1,2-ビス(2-クロロフェニル)ヒドラジン	合成原料(染料、医薬品)、染料
328	137-30-4	ビス(N,N'-ジメチルジチオカルバミン酸)亜鉛(別名ジラム)	農薬(殺虫剤)、加硫促進剤(チウラム系)
329	64440-88-6	ビス(N,N'-ジメチルジチオカルバミン酸)N,N'-エチレンビス(チオカルバモイルチオ亜鉛)(別名ポリカーバメート)	農薬(殺菌剤)
330	80-43-3	ビス(1-メチル-1-フェニルエチル)=ペルオキシド	重合開始剤(合成樹脂)、架橋剤(合成ゴム)
331	95465-99-9	S,S'-ビス(1-メチルプロピル)=O-エチル=ホスホロジチオアート(別名カズサホス)	農薬(殺虫剤)
332	-	砒素及びその無機化合物	殺虫剤、半導体、木材防腐・防蟻剤
333	302-01-2	ヒドラジン	清缶剤、合成原料(農業)、水処理剤、ロケット燃料、還元剤
334	99-76-3	4-ヒドロキシ安息香酸メチル	防腐剤(化粧品、医薬品)
335	103-90-2	N-(4-ヒドロキシフェニル)アセトアミド	合成原料(医薬品、化粧品)、試薬
336	123-31-9	ヒドロキノン	写真用材料(現像薬)、安定剤(重合防止剤)、合成原料(メトール、染料)
337	100-40-3	4-ビニル-1-シクロヘキセン	合成原料(難燃剤、塗料)
338	100-69-6	2-ビニルピリジン	合成原料(タイヤコード接着剤、殺虫剤、殺菌剤)
339	88-12-0	N-ビニル-2-ピロリドン	反応性希釈剤、合成原料(医薬、化粧品、工業用)
340	92-52-4	ピフェニル	熱媒体、合成樹脂原料、染色助剤、防かび剤

第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名 称 (和 文)	用 途
341	110-85-0	ピペラジン	触媒(ウレタン用)、合成原料、試薬(アンチモン・ビスマス・金の検出試薬)
342	110-86-1	ピリジン	合成原料(医薬品(スルフォンアミド剤、抗ヒスタミン剤)、界面活性剤、加硫促進剤、農薬)、アルコールの変性剤
343	120-80-9	ピロカテコール(別名カテコール)	合成原料(医薬品、香料)、加硫剤、重合防止剤、その他(酸化抑制剤)
344	96-09-3	フェニルオキシラン	合成原料(フェニルエチルアルコール、フェニルアラニン、合成樹脂、香料)
345	100-63-0	フェニルヒドラジン	合成原料(医薬品、農薬、染料)
346	90-43-7	2-フェニルフェノール	殺菌剤、防腐剤、防かび剤、合成繊維染色促進剤、合成樹脂原料、合成原料(可塑剤、染料、界面活性剤)
347	941-69-5	N-フェニルマレイミド	合成樹脂原料、合成原料(合成中間体、医薬品、農薬)、加硫剤(ゴム用)、殺菌剤、防カビ剤、水中生物忌避剤
348	95-54-5 106-50-3 108-45-2	フェニレンジアミン	合成原料(農薬、医薬品、ゴム薬、顔料)
349	108-95-2	フェノール	合成樹脂原料(フェノール樹脂)、合成原料(ピクリン酸、アニリン、ビスフェノール-A、農薬、可塑剤、染料)、消毒剤、歯科用局所麻酔
350	52645-53-1	3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート(別名ベルメトリン)	農薬(殺虫剤)
351	106-99-0	1,3-ブタジエン	合成樹脂原料(合成ゴム(SBR、NBR)、ABS樹脂)、合成原料(ブタンジオール)
352	131-17-9	フタル酸ジアリル	架橋剤(不飽和ポリエステル樹脂)、可塑剤(塩化ビニル樹脂用)、合成樹脂原料(ジアリルフタレート樹脂)
353	84-66-2	フタル酸ジエチル	可塑剤(塩化ビニル樹脂用)
354	84-74-2	フタル酸ジ-n-ブチル	可塑剤
355	117-81-7	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	可塑剤
356	85-68-7	フタル酸-n-ブチル=ベンジル	可塑剤
357	69327-76-0	2-ターシャリーブチルイミノ-3-イソプロピル-5-フェニルテトラヒドロ-4H-1,3,5-チアジアジン-4-オン(別名プロフェジン)	農薬(殺虫剤)
358	112410-23-8	N-ターシャリーブチル-N'-(4-エチルベンゾイル)-3,5-ジメチルベンゾヒドラジド(別名テブフェノジド)	農薬(殺虫剤)
359	2426-08-6	ノルマル-ブチル-2,3-エポキシプロピルエーテル	高分子改質剤
360	17804-35-2	N-[1-(N-ノルマル-ブチルカルバモイル)-1H-2-ベンゾイミダゾリル]カルバミン酸メチル(別名ペノミル)	農薬(殺菌剤)
361	122008-85-9	ブチル=(R)-2-[4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ]プロピオナート(別名シハロホップブチル)	農薬(除草剤)
362	80060-09-9	1-ターシャリーブチル-3-(2,6-ジイソプロピル-4-フェノキシフェニル)チオ尿素(別名ジアフェンチウロン)	農薬(殺虫剤)
363	19666-30-9	5-ターシャリーブチル-3-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2(3H)-オン(別名オキサジアゾン)	農薬(除草剤)
364	134098-61-6	ターシャリーブチル=4-[[[(1,3-ジメチル-5-フェノキシ-4-ピラゾリル)メチリデン]アミノオキシ]メチル]ベンゾアート(別名フェンピロキシメート)	農薬(殺虫剤)
365	25013-16-5	ブチルヒドロキシアニソール(別名BHA)	酸化防止剤(油脂類、化粧品)
366	75-91-2	ターシャリーブチル=ヒドロペルオキシド	重合開始剤、硬化剤(不飽和ポリエステル、メラミン)、乾燥剤(ワニス、ペイント)
367	89-72-5	オルト-セカンダリーブチルフェノール	合成原料(液晶原料)、酸化防止剤(塗料、ワニス)、農薬
368	98-54-4	4-ターシャリーブチルフェノール	合成樹脂原料(油性フェノール樹脂)、合成樹脂改質剤、合成原料(香料、界面活性剤)
369	2312-35-8	2-(4-ターシャリーブチルフェノキシ)シクロヘキシル=2-プロピニル=スルフィット(別名プロバルギット又はBPPS)	農薬(殺虫剤)

1 法律に関すること

V もっと知りたい時には

## 第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
370	96489-71-3	2-ターシャリーブチル-5-(4-ターシャリーブチルベンジルチオ)-4-クロロ-3(2H)-ピリダジノン(別名ピリダベン)	農業(殺虫剤)
371	119168-77-3	N-(4-ターシャリーブチルベンジル)-4-クロロ-3-エチル-1-メチルピラゾール-5-カルボキサミド(別名テブフェンピラド)	農業(殺虫剤)
372	95-31-8	N-(ターシャリーブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	加硫促進剤
373	88-60-8	2-ターシャリーブチル-5-メチルフェノール	合成原料(酸化防止剤、香料)
374	-	ふっ化水素及びその水溶性塩	合成原料(フロン)、金属・ガラスの表面処理剤(エッチング剤)、半導体製造用エッチング剤
375	4170-30-3	2-ブテナール	合成原料(ブタノール、医薬品)
376	23184-66-9	N-トキシメチル-2-クロロ-2',6'-ジエチルアセトアニリド(別名ブタクロール)	農業(除草剤)
377	110-00-9	フラン	合成樹脂原料、合成原料、溶剤、工業用洗浄剤、
378	12071-83-9	N,N'-プロピレンビス(ジチオカルバミン酸)と亜鉛の重合体(別名プロピネブ)	農業(殺菌剤)
379	107-19-7	2-プロピン-1-オール	洗浄剤、防錆剤(ワックス)、表面処理剤(電気メッキ)
380	353-59-3	プロモクロロジフルオロメタン(別名ハロン-1211)	ハロン(消火剤)
381	75-27-4	プロモジクロロメタン	非意図的生成物
382	75-63-8	プロモトリフルオロメタン(別名ハロン-1301)	ハロン(消火剤、冷媒)
383	314-40-9	5-プロモ-3-セカンダリーブチル-6-メチル-1,2,3,4-テトラヒドロピリミジン-2,4-ジオン(別名プロマシル)	農業(除草剤)
384	106-94-5	1-プロモプロパン	合成原料(医薬・農業中間体)
385	75-26-3	2-プロモプロパン	合成原料(医薬、農業、感光剤)
386	74-83-9	プロモメタン(別名臭化メチル)	合成原料、その他(食品・土壌くん蒸剤)
387	13356-08-6	ヘキサキス(2-メチル-2-フェニルプロピル)ジスタノキサン(別名酸化フェンブタス)	農業(殺虫剤)
388	115-29-7	6,7,8,9,10,10-ヘキサクロロ-1,5,5a,6,9,9a-ヘキサヒドロ-6,9-メタノ-2,4,3-ベンゾジオキサチエピン=3-オキシド(別名エンドスルファン又はベンゾエピン)	農業(殺虫剤)
389	112-02-7	ヘキサデシルトリメチルアンモニウム=クロリド	帯電防止剤(繊維用)、柔軟剤(繊維用)、化粧品、消毒剤、試薬
390	124-09-4	ヘキサメチレンジアミン	合成樹脂原料(ポリアミド(ナイロン66)樹脂・染料、ポリウレタン)
391	822-06-0	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	合成樹脂原料(塗料、接着剤、コーティング加工用樹脂)
392	110-54-3	ノルマルヘキサン	溶剤(重合用、接着剤、塗料、インキ)
393	135-19-3	ベタナフトール	合成原料(医薬品、 $\alpha$ -ナフトールスルホン酸、選鉱剤)
394	-	ベリリウム及びその化合物	電子機器用パネ材、X線管、安全工具
395	-	ペルオキシ二硫酸の水溶性塩	重合開始剤、酸化漂白剤、試薬
396	1763-23-1	ペルフルオロ(オクタン-1-スルホン酸)(別名PFOS)	メッキ薬、半導体製造用、消火剤、撥水剤、加工剤(紙の表面処理剤)、樹脂改質剤
397	98-07-7	ベンジリジンはトリクロリド	合成原料(医薬品、安定剤(老化防止剤)、染料、農業)、その他(紫外線吸収剤)
398	100-44-7	ベンジル=クロリド(別名塩化ベンジル)	合成原料(キノリンレッド、アリザリンエローA:染料、合成樹脂、香料、ピロガロール、イソキノリン、ガソリン重合体生成防止剤)
399	100-52-7	ベンズアルデヒド	合成原料(安息香酸、香料、医薬品、染料)、加工剤(合成繊維助剤)
400	71-43-2	ベンゼン	合成原料(スチレン、フェノール、無水マレイン酸、染料、有機顔料、合成洗剤、医薬品、香料、合成繊維、農業、可塑剤、防錆剤(PCP)、防虫剤)、溶剤、ガソリン成分



第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名 称 (和 文)	用 途
401	552-30-7	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸 1,2-無水物	合成原料(水溶性塗料、エステル系耐熱性可塑剤、ポリアミド)、硬化剤(エポキシ樹脂)、加工剤(繊維処理剤)、安定剤
402	73250-68-7	2-(2-ベンゾチアゾリルオキシ)-N-メチルアセトアニリド(別名メフェナセツ)	農薬(除草剤)
403	119-61-9		
404	87-86-5	ペンタクロロフェノール	農薬(防菌剤・防かび剤)
405	-	ほう素化合物	電機・電子工業(液晶パネル、ドーピング剤)、脱酸剤、ガラス繊維用添加剤、消毒剤
406	1336-36-3	ポリ塩化ビフェニル(別名PCB)	熱媒体、コンデンサー油
407	-	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	界面活性剤(乳化剤、可溶化剤、分散剤(洗浄剤、農薬、切削油、工業用エマルジョン、インキ、化粧品、医薬品))
408	9036-19-5	ポリ(オキシエチレン)=オクチルフェニルエーテル	界面活性剤(乳化剤、可溶化剤、分散剤(洗浄剤、農薬、切削油、工業用エマルジョン、インキ、化粧品、医薬品))
409	9004-82-4	ポリ(オキシエチレン)=ドデシルエーテル 硫酸エステルナトリウム	洗剤の基剤
410	9016-45-9	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	界面活性剤(乳化剤、可溶化剤、分散剤(洗浄剤、農薬、切削油、工業用エマルジョン、インキ、化粧品、医薬品))
411	50-00-0	ホルムアルデヒド	合成樹脂原料(フェノール系、尿素系、メラミン系合成樹脂、ポリアセタール樹脂)、パラホルムアルデヒド、繊維処理剤、その他(消毒剤、一般防腐剤)
412	-	マンガン及びその化合物	特殊鋼、電池、磁性材料、脱酸素剤、酸化剤
413	85-44-9	無水フタル酸	合成樹脂原料(不飽和ポリエステル樹脂)、合成原料(フタル酸系可塑剤(DOP、DBP)、フタルイミド、安息香酸)、ゴム薬品(スコーチ防止剤)
414	108-31-6	無水マレイン酸	合成樹脂原料(不飽和ポリエステル樹脂)、合成原料(テトラヒドロフラン、フマル酸、コハク酸、可塑剤(DOM))、その他(皮なめし剤)
415	79-41-4	メタクリル酸	合成樹脂原料(熱硬化性樹脂、接着剤、塗料)、加工剤(ラテックス改質剤、プラスチック改質剤、紙・繊維加工剤、皮革処理剤)
416	688-84-6	メタクリル酸2-エチルヘキシル	合成樹脂原料(塗料、被覆材料)、加工剤(繊維処理剤)、接着剤、その他(潤滑油添加剤、歯科材料、分散剤、内部可塑剤)
417	106-91-2	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	合成樹脂原料(熱硬化性樹脂、イオン交換樹脂)、加工剤(繊維処理剤、ゴム・樹脂の改質剤)、接着剤、帯電防止剤、安定剤(塩化ビニル)、印刷インキのバインダー
418	2867-47-2	メタクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチル	合成樹脂原料(塗料、イオン交換樹脂)、繊維処理剤、加工剤(紙)、安定剤(ゴム)、潤滑油添加剤
419	97-88-1	メタクリル酸ノルマルブチル	合成樹脂原料(樹脂)、金属表面処理剤、加工剤(繊維処理剤、紙加工剤)、可塑剤(塗料内部可塑剤)、潤滑油添加剤
420	80-62-6	メタクリル酸メチル	合成樹脂原料(メタクリル樹脂、接着剤)
421	674-82-8	4-メチリデンオキセタン-2-オン(別名 ジケテン)	合成原料(医薬品、染料、殺菌剤、防腐剤、樹脂安定剤)、農薬
422	89269-64-7	(Z)-2'-メチルアセトフェノン=4,6-ジメチル-2-ピリミジニルヒドラゾン(別名フェリムゾン)	農薬(殺菌剤)
423	74-89-5	メチルアミン	合成原料(農薬、医薬品、染料、スラリー爆薬)
424	556-61-6	メチル=イソチオシアネート	農薬(殺虫剤)

## 第一種指定化学物質リスト

平成22年度から排出量・移動量を把握、平成23年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名称(和文)	用途
425	2631-40-5	N-メチルカルバミン酸2-イソプロピルフェニル(別名イソプロカルブ又はMIPC)	農薬(殺虫剤)
426	1563-66-2	N-メチルカルバミン酸2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-7-ベンゾ[b]フラニル(別名カルボフラン)	農薬(殺虫剤)
427	63-25-2	N-メチルカルバミン酸1-ナフチル(別名カルバリル又はNAC)	農薬(殺虫剤)
428	3766-81-2	N-メチルカルバミン酸2-sec-ブチルフェニル(別名フェノカルブ又はBPMC)	農薬(殺虫剤)
429	100784-20-1	メチル=3-クロロ-5-(4,6-ジメトキシ-2-ピリミジニルカルバモイルスルファモイル)-1-メチルピラゾール-4-カルボキシラート(別名ハロスルフロンメチル)	農薬(除草剤)
430	173584-44-6	メチル=(S)-7-クロロ-2,3,4a,5-テトラヒドロ-2-[メトキシカルボニル(4-トリフルオロメトキシフェニル)カルバモイル]インデノ[1,2-e][1,3,4]オキサジアジン-4a-カルボキシラート(別名インドキサカルブ)	農薬(殺虫剤)
431	131860-33-8	メチル=(E)-2-[2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル]-3-メトキシアクリラート(別名アゾキシストロピン)	農薬(殺菌剤)
432	33089-61-1	3-メチル-1,5-ジ(2,4-キシリル)-1,3,5-トリアザペンター-1,4-ジエン(別名アミトラス)	農薬(殺虫剤)
433	144-54-7	N-メチルジチオカルバミン酸(別名カーバム)	農薬(殺虫剤)
434	23135-22-0	メチル-N,N'-ジメチル-N-[(メチルカルバモイル)オキシ]-1-チオオキサミミデート(別名オキサミル)	農薬(殺虫剤)
435	136191-64-5	メチル=2-(4,6-ジメトキシ-2-ピリミジニルオキシ)-6-[1-(メトキシイミノ)エチル]ベンゾアート(別名ピリミノバックメチル)	農薬(除草剤)
436	98-83-9	アルファ-メチルスチレン	加工剤(樹脂改質剤)
437	3268-49-3	3-メチルチオプロパナール	合成樹脂原料、着香剤、消臭剤、試薬、食品添加物
438	1321-94-4	メチルナフタレン	合成原料(染料、熱媒油)、溶剤(農薬分散用)
439	108-99-6	3-メチルピリジン	合成原料(医薬品、農薬、ゴム薬品、界面活性剤)、溶剤
440	80-15-9	1-メチル-1-フェニルエチルヒドロペルオキシド	連鎖移動剤
441	88-85-7	2-(1-メチルプロピル)-4,6-ジニトロフェノール	農薬(除草剤)
442	55814-41-0	2-メチル-N-[3-(1-メチルエトキシ)フェニル]ベンズアミド(別名メブロニル)	農薬(殺菌剤)
443	16752-77-5	S-メチル-N-(メチルカルバモイルオキシ)チオアセトイミダート(別名メソミル)	農薬(殺虫剤)
444	141517-21-7	メチル=(E)-メトキシイミノ-[2-[[[(E)-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]エチリデン]アミノ]オキシ]メチル]フェニル]アセタート(別名トリフロキシストロピン)	農薬(殺菌剤)
445	143390-89-0	メチル=(E)-メトキシイミノ[2-(オルト-トリルオキシメチル)フェニル]アセタート(別名クレンキシムメチル)	農薬(殺菌剤)
446	101-77-9	4,4'-メチレンジアニリン	合成原料(染料)、合成樹脂原料(ポリウレタン樹脂)、硬化剤(エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂)
447	5124-30-1	メチレンビス(4,1-シクロヘキシレン)=ジイソシアネート	合成樹脂原料(ポリウレタン樹脂)
448	101-68-8	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート(別名MDI)	合成樹脂原料(ウレタンエストラマー)
449	13684-63-4	3-メトキシカルボニルアミノフェニル=3'-メチルカルバニラート(別名フェンメディファム)	農薬(除草剤)
450	88678-67-5	N-(6-メトキシ-2-ピリジニル)-N-メチルチオカルバミン酸O-3-ターシャリーブチルフェニル(別名ピリブチカルブ)	農薬(除草剤)
451	120-71-8	2-メトキシ-5-メチルアニリン	合成原料(アゾ染料:エオサミンB、コクシニンB等)
452	149-30-4	2-メルカプトベンゾチアゾール	加硫促進剤(ゴム薬品)
453	-	モリブデン及びその化合物	特殊鋼、顔料、触媒
454	95-32-9	2-(モルホリノジチオ)ベンゾチアゾール	合成原料、合成樹脂原料、ゴム用添加剤

第一種指定化学物質リスト

平成 22 年度から排出量・移動量を把握、平成 23 年度から届け出る対象物質

政令 番号	CAS番号	名 称 (和 文)	用途
455	110-91-8	モルホリン	溶剤、合成原料(乳化剤、切削油、潤滑油)、防錆剤、重合触媒、ガス吸収材、pH調整剤
456	20859-73-8	りん化アルミニウム	農薬(殺虫剤)
457	62-73-7	りん酸ジメチル=2,2-ジクロロビニル(別名ジクロロボス又はDDVP)	農薬(殺虫剤)
458	78-42-2	りん酸トリス(2-エチルヘキシル)	可塑剤(合成ゴム、塩化ビニル樹脂)、溶剤
459	115-96-8	りん酸トリス(2-クロロエチル)	難燃剤(塩化ビニル・硬質ウレタンフォーム・ポリエステル・エポキシ樹脂用)
460	1330-78-5	りん酸トリトリル	可塑剤(塩化ビニル樹脂、合成ゴム、セルロース用)、柔軟剤(ゴム用)、難燃剤、不燃性作動液、ガンリン添加剤、潤滑油添加剤
461	115-86-6	りん酸トリフェニル	可塑剤・難燃剤・安定剤(合成樹脂、合成ゴム)
462	126-73-8	りん酸トリノルマルブチル	触媒、安定剤(樹脂、繊維)、可塑剤、潤滑油添加剤、レザー用消泡剤

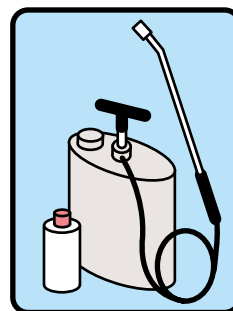
## (4) 商品に表示されている第一種指定化学物質の名称

家庭で使用する農薬や殺虫剤、洗濯用洗剤などに含まれる化学物質の排出量は、国が推計し公表しています。それぞれの製品に含まれる化学物質は、製品ラベルに表示されていますが、化管法の対象化学物質の名称と一致していないものもあります。

ここでは、法令や法令に基づく規定、工業会の独自規定などで製品ラベルの表示ルールが決められている商品について、第一種指定化学物質の表示名称をご紹介します。

### ■ 農 薬

農薬は、農薬取締法で製品表示のルールが定められています。農薬を販売するときは、容器に農薬の種類、名称などの他、有効成分とその他の成分の別に各成分の種類と含有量等が表示されます。有効成分は、一般名で表示されます（例えば、「ABCD 乳剤」という種類名の農薬は剤型（乳剤）を除いた「ABCD」が一般名にあたります）。その他の成分は、水、界面活性剤、有機溶剤、乳化剤などにまとめて表示されます。



農薬の有効成分の製品表示名称

物質番号	PRTR対象化学物質 第一種指定化学物質名称	農薬の有効成分の 表示名称
47	0-エチル=0-(6-ニトロ-m-トリル)=sec-ブチルホスホルアミドチオアート	ブタミホス
63	1,1'-エチレン-2,2'-ビピリジニウム=ジプロミド	ジクワット
113	2-クロロ-4,6-ビス(エチルアミノ)-1,3,5-トリアジン	CAT
162	3,5-ジクロロ-N-(1,1-ジメチル-2-プロピニル)ベンズアミド	プロビザミド
169	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素	DCMU
184	2,6-ジクロロベンゾニトリル	DBN
191	1,3-ジチオラン-2-イリデンマロン酸ジイソプロピル	イソプロチオラン
193	ジチオリン酸0,0-ジエチル-S-(2-エチルチオエチル)	エチルチオメトン
195	ジチオリン酸0-2,4-ジクロロフェニル-0-エチル-S-プロピル	プロチオホス
225	ジメチル=2,2,2-トリクロロ-1-ヒドロキエチルホスホナート	DEP
227	1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジニウム=ジクロリド	パラコート
247	チオリン酸0-1-(4-クロロフェニル)-4-ピラゾリル-0-エチル-S-プロピル	ピラクロホス
248	チオリン酸0,0-ジエチル-0-(2-イソプロピル-6-メチル-4-ピリミジニル)	ダイアジノン
250	チオリン酸0,0-ジエチル-0-(5-フェニル-3-イソキサゾリル)	イソキサチオン
251	チオリン酸0,0-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)	MEP
260	テトラクロロイソフタロニトリル	TPN
268	テトラメチルチウラムジスルフィド	チウラム
325	ビス(8-キノリノラト)銅	有機銅
350	3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート	ペルメトリン
357	2-tert-ブチルイミノ-3-イソプロピル-5-フェニルテトラヒドロ-4H-1,3,5-チアジアジン-4-オン	ブプロフェジン

358	N-tert-ブチル-N-(4-エチルベンゾイル)-3,5-ジメチルベンゾヒドラジド	テブフェノジド
364	tert-ブチル=4-([1,3-ジメチル-5-フェノキシ-4-ピラゾリル]メチリデン]アミノオキシメチル)ベンゾアート	フェンピロキシメート

※第一種指定化学物質に指定されている一部の農薬についての製品表示名称です。

## ■ 殺虫剤

家庭用殺虫剤は、対象害虫の種類により家庭用殺虫剤、不快害虫用殺虫剤、シロアリ防除剤に分かれます。

### (1) 家庭用殺虫剤

家庭用殺虫剤とは、衛生害虫（ハエ、カ、ゴキブリなど）の駆除を目的とした殺虫剤です。薬事法で製品表示のルールが定められています。

製品に含まれる成分や分量等の種類により、医薬品または防除用医薬部外品に分類されます。薬事法で製品表示についてルールが定められているほか、日本家庭用殺虫剤工業会が自主基準として「医薬品殺虫剤等の添付文書（製品表示）作成のガイドライン」で製品表示ルールを定め、添付文書または直接の容器や被包に、承認された医薬品及び医薬部外品の成分および分量が表示されます。いずれも容器等に有効成分は一般名で表示されます。その他の成分は、表示ルールが定められていません。



### (2) 不快害虫用殺虫剤

不快害虫用殺虫剤とは、家庭用に販売される不快害虫（アリ、ハチなど）の防除を目的とした殺虫剤です。農薬取締法の適用対象外製品ですが、厚生労働省が作成した「家庭用不快害虫用殺虫剤安全確保マニュアルの作成の手引き」\*1および生活害虫防除剤協議会が定めた「家庭用生活害虫防除剤の自主基準」\*2で、自主的な製品表示ルールが定められています。

有効成分は、容器等に一般名（ないものは通称または略称）で表示されます。その他の成分は、表示ルールが定められていません。

### (3) シロアリ防除剤

シロアリ防除剤とは、建物のシロアリ防除を目的とした殺虫剤です。家庭用の製品の表示ルールは定められていません。

家庭用殺虫剤及び不快害虫用殺虫剤の有効成分の製品表示名称

物質番号	PRTR対象化学物質 第一種指定化学物質名称	殺虫剤の有効成分の表示名称 (一般名等)
22	5-アミノ-1-[2,6-ジクロロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-3-シアノ-4-[(トリフルオロメチル)スルフィニル]ピラゾール	フィプロニル
181	ジクロロベンゼン	オルトジクロロベンゼン
248	チオリン酸O,0-ジエチル-0-(2-イソプロピル-6-メチル-4-ピリミジニル)	ダイアジノン

251	チオりん酸O,O-ジメチル-0-(3-メチル-4-ニトロフェニル)	MEP
252	チオりん酸O,O-ジメチル-0-(3-メチル-4-メチルチオフェニル)	MPP
350	3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート	ペルメトリン
405	ほう素及びその化合物	ホウ酸
427	N-メチルカルバミン酸1-ナフチル	NAC
428	N-メチルカルバミン酸2-sec-ブチルフェニル	BPMC
457	りん酸ジメチル=2,2-ジクロロビニル	DDVP

※ 1 厚生労働省「家庭用不快害虫用殺虫剤安全確保マニュアルの作成の手引き」の詳しい内容は、  
<http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/manu/hukaigaiyu/hukaigaiyu.html> をご参照ください。

※ 2 生活害虫防除剤協議会「家庭用生活害虫防除剤の自主基準」の詳しい内容は、  
<http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/manu/hukaigaiyu/080801jishukijyunrev.pdf> をご参照ください。

## ■ 洗剤（界面活性剤・中和剤）

洗濯用や台所用などの洗剤や石けんは、適切な品質確保の為に設けられた家庭用品品質表示法により製品表示のルールが定められています。

洗剤の成分表示のうち、界面活性剤は「界面活性剤」の次に括弧書きでその含有率と種類の名称が表示されます。中和剤などは、機能の名称を示す用語を用いて表示されるため、特定の化学物質の名称は表示されません。



### 洗剤に含まれる界面活性剤の製品表示名称

PRTR対象化学物質		洗剤に含まれる界面活性剤の表示名称
物質番号	第一種指定化学物質名称	
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る)	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム
224	N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド	アルキルアミンオキシド
407	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る)	ポリオキシエチレンアルキルエーテル

※ 日本石鹸洗剤工業会では、家庭用品に用いられる界面活性剤について、家庭用品品質表示法と化管法で規定する界面活性剤名称の対比表を作成しています。詳しい内容はホームページ [http://jsda.org/w/03\\_shiki/a\\_kaimen08.html](http://jsda.org/w/03_shiki/a_kaimen08.html) をご参照ください。

## ■ 化粧品

化粧品は、薬事法で製品表示のルールが定められています。  
化粧品は、容器等に全成分が表示されます。成分の名称は、日本化粧品工業連合会が取りまとめた「化粧品の成分表示リスト」<sup>\*1</sup>を利用し、消費者の混乱をできるだけ防ぐよう配慮されています。

薬用化粧品等の医薬部外品についても、工業界の自主的な取組で成分表示がされています。医薬部外品は、薬事法に基づく審査を受けた製品や定められている基準に適合する製品が販売されている等化粧品とは異なる手続きがとられているため、表示名称についても化粧品と同じ場合もありますが、異なる場合もあります。



化粧品に含まれる成分の製品表示名称

PRTR対象化学物質		化粧品の成分表示名称
物質番号	第一種指定化学物質名称	
20	2-アミノエタノール	エタノールアミン
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る)	ドデシルベンゼンスルホン酸Na ドデシルベンゼンスルホン酸 ドデシルベンゼンスルホン酸K ドデシルベンゼンスルホン酸TEA
60	エチレンジアミン四酢酸	EDTA
224	N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド	ラウラミンオキシド
407	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る)	(C12,13)パレス-10、(C12-14)パレス-3、 (C12-14)パレス-5、(C12-14)パレス-7、 (C12-14)パレス-9、(C12-14)パレス-12、 PEG-3イソミリスチル、PEG-3.3イソミリスチル、 PEG-9イソミリスチル、イソラウレス-6、イソラウレス-10、 トリデセス-2、トリデセス-3、トリデセス-4、トリデセス-5、 トリデセス-6、トリデセス-7、トリデセス-8、トリデセス-9、 トリデセス-10、トリデセス-11、トリデセス-12、トリデセス-15、 トリデセス-20、トリデセス-21、トリデセス-50、 ミレス-2、ミレス-3、ミレス-4、ミレス-5、ミレス-10、 ラウレス-1、ラウレス-2、ラウレス-3、ラウレス-4、ラウレス-5、 ラウレス-6、ラウレス-7、ラウレス-8、ラウレス-9、 ラウレス-10、ラウレス-11、ラウレス-12、ラウレス-13、 ラウレス-14、ラウレス-15、ラウレス-16、ラウレス-20、 ラウレス-21、ラウレス-23、ラウレス-24、ラウレス-25、 ラウレス-30、ラウレス-38、ラウレス-40、ラウレス-50

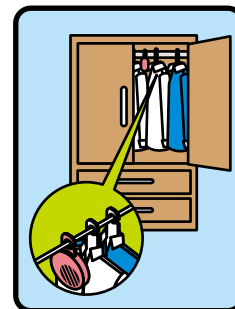
408	ポリ(オキシエチレン)=オクチルフェニルエーテル	オクトキシノール-1、オクトキシノール-3、オクトキシノール-5、オクトキシノール-7、オクトキシノール-8、オクトキシノール-9、オクトキシノール-10、オクトキシノール-11、オクトキシノール-12、オクトキシノール-13、オクトキシノール-16、オクトキシノール-20、オクトキシノール-25、オクトキシノール-30、オクトキシノール-33、オクトキシノール-40、オクトキシノール-70
410	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	ノノキシノール-1、ノノキシノール-2、ノノキシノール-3、ノノキシノール-4、ノノキシノール-5、ノノキシノール-6、ノノキシノール-7、ノノキシノール-8、ノノキシノール-9、ノノキシノール-10、ノノキシノール-11、ノノキシノール-12、ノノキシノール-13、ノノキシノール-14、ノノキシノール-15、ノノキシノール-18、ノノキシノール-20、ノノキシノール-23、ノノキシノール-30、ノノキシノール-35、ノノキシノール-40、ノノキシノール-44、ノノキシノール-50、ノノキシノール-100、ノノキシノール-120

※ 1 日本化粧品工業連合会「化粧品の成分表示リスト」の詳しい内容は、<http://www.jcia.org/search.htm> をご参照ください。

## ■ 防虫剤

防虫剤は、日本繊維製品防虫剤工業会が定めた「防虫剤の表示に関する公正競争規約」<sup>※1</sup>や「防虫剤の表示に関する公正競争規約施行規則」<sup>※2</sup>で製品表示のルールが定められています。

主たる成分は、製品の容器又は包装に「○○製剤」と表示されます。その他の成分は、表示ルールが定められていません。



### 防虫剤に含まれる主たる成分の製品表示名称

PRTR対象化学物質		防虫剤の主たる成分の表示名称
物質番号	第一種指定化学物質名称	
181	ジクロロベンゼン	パラジクロルベンゼン製剤

※ 1 日本繊維製品防虫剤工業会「防虫剤の表示に関する公正競争規約」の詳しい内容は、<http://www.bouchuko.org/images/kiyaku.pdf> をご参照ください。

※ 2 日本繊維製品防虫剤工業会「防虫剤の表示に関する公正競争規約施行規則」の詳しい内容は、<http://www.bouchuko.org/kyousou-kiyaku.pdf> をご参照ください。



## (5) ファイル記録事項開示請求書

(裏面)

※開示を請求する情報で「ファイル記録事項の一部」を選択した場合は、必ず以下を御記入ください。

※以下のいずれかの□にレ点を付し、必要事項を記入してください。  
欄が足りない場合は、備考欄を活用してください。

特定の事業所の情報 ※事業所の名称及び所在地を記入してください。

一定の条件を満たす事業所の情報 ※以下、①～④の空欄に検索条件を記載してください。  
(複数選択可)

※以下①～④のすべての条件を満たす事業所について、開示を求めます。

①都道府県・市区町村名	東京都千代田区	に所在する事業所であること
②業種名又は業種コード	化学工業 (業種コード2000)	に属する事業を営む事業所であること
③化学物質名称及び施行令号番号	名称：四塩化炭素 番号：149	の届出をした事業所であること
④その他		

備考

＜記入にあたっての注意事項＞

- 開示を求める事業所が特定されている場合には、「特定の事業所の情報」に、検索項目(①～④)により事業所を絞り込んで特定する場合は「一定の条件を満たす事業所の情報」に、該当するいずれか一方を選択して、記載してください。
- 特定の事業所の情報(事業所の名称及び所在地)の欄には、事業者が特定できるよう、事業所の正式名称並びに所在する都道府県及び市区町村名を記載してください。
- 一定の条件を満たす事業所の情報①～④には、それぞれ複数の事項を記載することができます。
- 一定の条件を満たす事業所の情報「④その他」の欄には、①～③以外の条件を記載することができます。(可能な限り具体的に記載してください。)

ただし、ファイル記録事項にある項目以外の項目で検索することはできません。

### ファイル記録事項開示請求書

平成 23 年 4 月 1 日

環境大臣 殿

請求者

住所	〒100-8975
氏名	東京都千代田区霞が関1-2-2 環境太郎
※法人その他の団体においては、その所在地・名称及び代表者の氏名を記載。 問い合わせ先 ※郵送又はインターネットで開示を請求する場合はのみ (電話番号) (郵送先は、上記住所あてとなります。)	03-3581-3351 (内線 6358) (担当者の氏名 霞が関花子)
※法人その他の団体においては、担当者の氏名も記載。	

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律第10条  
第1項に基づき、次のとおりファイル記録事項の開示を請求します。

開示を請求するファイル記録事項の対象年度(排出年度)	平成 22 年度に第一種指定化学物質等取扱事業者が把握した情報
開示を請求する情報	<input checked="" type="checkbox"/> すべてのファイル記録事項 <input type="checkbox"/> ファイル記録事項の一部 (※裏面に記載記入ください)
希望する開示実施方法	<input type="checkbox"/> 用紙(A4)への出力 <input type="checkbox"/> フレキシブルディスク(FD) <input checked="" type="checkbox"/> 光ディスク(CD-R)

※以下の欄には記入しないで下さい。

※以下のいずれかの□にレ点を付してください。

すべてのファイル記録事項  
 ファイル記録事項の一部 (※裏面に記載記入ください)

※以下のいずれかの□にレ点を付してください。上記で「すべてのファイル記録事項」を選択された場合、この欄への記載は不要です。(光ディスクでの開示となります。)

用紙(A4)への出力  
 フレキシブルディスク(FD)  
 光ディスク(CD-R)

(収入印紙貼付欄)

用紙・FD・CD-R 枚/MB	円
(料金)	

※以下の欄には記入しないで下さい。  
(受付印)

## ② PRTRに関連する用語の解説

### 環境リスク

#### 【かんきょうリスク】

化学物質の「環境リスク」とは、化学物質が環境を經由して人の健康や動植物の生息又は生育に悪い影響を及ぼすおそれのある可能性をいう。その大きさは、化学物質の有害性の程度と、呼吸、飲食、皮膚接触などの経路でどれだけ化学物質に接したか（暴露量）で決まり、概念的に式で表すと次のようになる。

$$\text{化学物質の環境リスク} = \text{有害性の程度} \times \text{暴露量}$$

化学物質は、安全なものとうるなものに二分することはできない。例えば、有害性が低くても短期間に大量に暴露すれば悪影響が生じる可能性は非常に高くなり、逆に有害性の高い物質であってもごく微量の暴露であれば、悪影響が生じる可能性は低くなる。技術的、費用的な面で限界があるものの、暴露量を少なくしたり、有害性の低い物質を使用したりすることで、環境リスクを低減することができる。

### 排出量

#### 【はいしゅつりょう】

生産工程などから排ガスや排水等に含まれて環境中に排出される第一種指定化学物質の量。例えば、大気では排気口や煙突からの排出ばかりではなく、ペンキなどの塗料に含まれる成分の揮発、水域では公共用水域への排出のほか廃液などを公海域に投棄する場合、土壌ではタンクやパイプから土壌への漏洩などが含まれる。

### 移動量

#### 【いどうりょう】

その事業活動にかかる廃棄物の処理を当該事業所の外において行うことに伴い当該事業所の外に移動する第一種指定化学物質の量のことであり、具体的には下水道への放出、他の産業廃棄物処理業者に廃棄物の処理を委託した量。

### 取扱量

#### 【とりあつかいりょう】

当該化学物質の製造量・使用量等を合計した量。

### 化学物質管理指針【かがくぶっしつかんりしん】

「化学物質管理指針」とは、化管法第3条第1項の規定に基づき、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止するため、事業者が講ずべき化学物質の管理に係る措置を定めたもの。

事業者は責務として、この指針に留意して、化学物質の取扱い等に係る管理を行うとともに、その管理の状況に関する国民の理解を深めるよう努めなければならないとされている。（化学物質管理指針、平成12年3月30日環境庁・通商産業省告示第1号）

### 有害性

#### 【ゆうがいせい】

化学物質のもつ物性（融点や密度）とともに固有の性質の一つで、人の健康や環境に悪影響を及ぼす性質をいう。化学物質の有害性は、症状が現れるまでの時間によって急性毒性和慢性毒性に分けられ、また症状の種類として発がん性や生殖毒性などがある。多くの有害性は、動物実験で得られた結果を人に当てはめるため、不確実性を伴う。

急性毒性とは、化学物質を1回投与するか短時間暴露してから数日以内に発症する毒性を指す。慢性毒性とは、化学物質を繰り返し投与するか長期間暴露したとき数カ月以上してから発症する毒性を指す。急性毒性に比べ症状が低濃度で現れる。

## 発がん性

【はつがんせい】

発がん性に基づき 2 つのクラスに分類されている。発がん性とは動物の正常細胞に作用して、細胞をがん化する性質のことである。分類に際しては IARC (国際がん研究機関)、EPA (米国環境保護庁)、EU (欧州連合)、NTP (米国毒性プログラム)、ACGIH (米国産業衛生専門家会議)、日本産業衛生学会の 6 つの機関の発がん性ランクを利用している。

### 発がん性の分類

クラス	機関名	IARC	EPA	EU	NTP	ACGIH	日本産業衛生学会
	評価方法						
1	人発がん性あり (1 機関以上)	1	A	1	a	A1	1
2	人発がん性の疑いが強い (IARC で 2A または 2B または複数機関)	2A 2B	B1 B2	2	b	A2 A3	2A 2B

## 変異原性

【へんいげんせい】

変異原性とは突然変異を引き起こす性質のことで、発がん性などと関係がある。

## 感受性

【かんさせい】

感受性とは化学物質への反復暴露後に、暴露された人または動物の大部分にその正常な組織にアレルギー反応を生じさせる性質のことである。

## 生態毒性

【せいたいどくせい】

生態毒性は、主として魚、ミジンコ及び藻類に対する毒性試験で示されるもので、動植物の生息もしくは生育に支障を及ぼすおそれがある性質のことである。

## オゾン層破壊物質

【おぞんそうはかいぶつしつ】

オゾン層破壊物質とは、オゾン層を破壊し、太陽紫外放射の地表に到達する量を増加させることにより人の健康を損なうおそれがある物質。国際的にもモントリオール議定書において規定されている。

## CAS 番号

【キャスばんごう】

アメリカ化学会の機関である CAS (Chemical Abstracts Service) が化学物質に付与している登録番号で、\*\*\*\*\*-\*\*-\*\*の数字。世界的に広く使用されている化学物質に対するコードで、現在約 6360 万種以上の有機・無機化合物の登録がある。

(2012 年 3 月現在 <http://www.cas.org/cgi-bin/cas/regreport.pl> 参照)

## レスポンシブル・ケア

事業者が、製品の開発から廃棄に至るすべての過程において環境保全・安全を確保することを主旨とする自主管理活動。1985 年にカナダではじまり、日本では平成 7 年 (1995 年) に (社) 日本化学工業協会が日本レスポンシブル・ケア協議会を設立し、医薬品、化学、プラスチック、ガラス、塗料などの製造業約 86 社 (2012 年 1 月現在) が加盟して取組を進めている。

## 環境マネジメントシステム

### 【かんきょうマネジメントシステム】

事業者が自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境管理」または「環境マネジメント」といい、このための工場や事業場内の体制・手続き等を「環境マネジメントシステム」という。環境マネジメントに関しては、ISO（国際標準化機構）がISO14000シリーズと呼ばれるさまざまな国際規格を定めており、これらは、環境マネジメントシステムを中心として、環境監査、環境パフォーマンス評価、環境ラベル、ライフサイクルアセスメントなど、環境マネジメントを支援するさまざまな手法に関する規格から構成されている。

## 環境報告書

### 【かんきょうほうこくしょ】

事業者の環境負荷の状況や環境保全活動をまとめた年次報告書で、自主的な情報公表の手段となっている。

## MSDS

### 【エムエスディーエス】

(Material Safety Data Sheet : 化学物質等安全データシート)

事業者が排出量や移動量を算出する際、自分の取り扱っている原材料等に関して、どのような化学物質がどれくらい含まれているかという情報が必要になる。このような情報に加え、その性状や取扱い方法などが記載されたものを化学物質等安全データシート (MSDS) という。MSDSは、事業者が化学物質や製品を他の事業者に譲渡・提供する際に、事前にその相手方に対して、その物質に関する情報を提供するためのもので、化管法では、政令で定める第一種指定化学物質、第二種指定化学物質及びこれらを含む一定の要件を満たす製品について、このMSDSを提供することが義務づけられている。(次ページ参照)

MSDSに関する規定は、「指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報の提供の方法等を定める省令」(平成12年12月22日通産省令第401号)

[http://www.env.go.jp/chemi/prtr/archive/law/law\\_5.html](http://www.env.go.jp/chemi/prtr/archive/law/law_5.html) で定められている。

## 指定化学物質等取扱事業者

### 【していかがかくぶっしつとうとりあつかいじぎょうしゃ】

化管法では、第一種指定化学物質等及び第二種指定化学物質等を取り扱う事業者を「指定化学物質等取扱事業者」と定義している。ここでは、PRTR制度の対象業種や従業員数、取扱量などの要件(10ページ参照)はなく、これらの指定化学物質を出荷する際には、MSDSを提供することが義務づけられている事業者のことを指す。なお、第一種指定化学物質等を取り扱い、対象業種に指定され、取扱量の要件を満たす事業者を「第一種指定化学物質等取扱事業者」という。